

# 多摩川流域環境保全データベース検証用Web GIS構築に関する研究

2013年

宮林 茂幸  
多摩川源流研究所・東京農業大学教授

共同研究者：中村 文明 多摩川源流研究所所長  
尾高 重徳 国土地図GIS担当

## (1) はじめに ー調査・研究の目的について

本事業は、多摩川流域を対象に源流域における自然環境、社会環境に係わる様々な課題について、インターネットで配信し、誰もが源流域空間の現状を視覚的に把握し、問題解決に対する理解者の輪を広げること及びそのための情報伝達手段に関する双方向機能を有するWebGISを用いた検証システムを構築し、流域の関係組織との情報交換の仕組み並びに運用に関する実行手段の基本的な計画とシステムを整備することを目的としている。

多摩川源流域は、歴史的に多摩川及び玉川上水を通して江戸及び東京の発展に大きく貢献してきた結果、源流と流域は密接に繋がっている。急速な過疎化、高齢化の中で小菅村や丹波山村は戦後人口が2千名を超えていたが、現在では小菅村750名、丹波山村600名へと急速に減少するなど厳しい環境にある。地球温暖化が進展する中、源流域の水資源や森林資源の保全是ますます重要度を増しており、源流の可視化事業のより一層の進展が求められている。

ところで、多摩川流域では、平成10年に全国に先駆けていい川づくりの協働体である多摩川流域懇談会が結成され、源流から下流まで流域16市区村に水辺の楽校のネットワークが広がり、さらに源流から河口・海までを網羅した市民組織である多摩川流域ネットワークが誕生するなど流域連携・市民連携が大きく進展している。

(2) 本事業の成果物について 平成25年9月1日に公開したWEBGISの成果物情報マップ11を分野別に紹介する。なお予算の関係で2分野のみの公開。

情報マップ1 多摩川流域情報マップのトップページ

## 多摩川流域 情報マップ

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

多摩川流域情報マップでは、多摩川流域の自然環境、歴史、文化などの地理情報を整理・表示しています。



### 本サイトについて

本サイト「多摩川流域 情報マップ」は、多摩川流域の地区、自治体情報や現流域のデータや諸情報を集約し、地図上に整理、表示、発信していきます。多摩川流域の市民、企業など、さまざまな人々の流域への興味関心が高まり、環境保全の輪が広がるきっかけになれば幸いです。

なお、本サイトの管理運営は「公益財団法人とうきゅう環境財団」の助成により「小菅村多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク」が行っております。

本サービスに関するご意見・ご質問などは[こちらまで](#)ご連絡下さい。

多摩川源流・流域情報    小菅村の地名とその由来    とうきゅう環境財団研究成果

多摩川の植物・お魚図鑑    多摩川流域水質情報    水辺の楽校活動情報

掲載している情報について

#### 多摩川源流・流域情報



多摩川源流域を中心に、滝・淵などの地形や、「小菅の湯」などの観光資源、神社など歴史スポットの紹介をしています。

#### 小菅村の地名とその由来

**小菅村内の8地区114の小字名について、その範囲を明示し、さらに地名の生まれてきた由来を紹介しています。**

出典資料：源流絵図小菅版

#### とうきゅう環境財団研究成果



公益財団法人とうきゅう環境財団より提供を受けた多摩川およびその流域の環境保全・改善に関する調査・試験研究成果について、その研究の対象としている地点や地域を点や範囲で明示し、研究の概要を掲載しています。

調査地点が複数ある場合や、広範囲にわたる場合は、調査地域を「上流」「中流」「下流」「上流・中流」「中流・下流」「全域」の8種類に分類して明示しています。

資料提供  
公益財団法人とうきゅう環境財団

#### 多摩川の植物・お魚図鑑



#### 多摩川流域水質情報

現在の多摩川の水質の状況を単年度だけではなく時系列でみることができます

資料提供：みずとみどり研究会

#### 水辺の楽校活動情報



多摩川流域に18ある水辺の楽校の活動範囲と行事を掲載しています。

先行して、経江水辺の楽校、せたがや水辺の楽校、かわさき水辺の楽校の情報を掲載しています(各水辺の楽校のホームページの情報を掲載しています)

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業  
運営：小菅村 多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク  
協力：多摩川流域懇談会 / NPO法人全国源流ネットワーク / 全国源流の里協議会



多摩川源流研究所

## 多摩川流域 情報マップ

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

多摩川流域情報マップでは、多摩川流域の自然環境、歴史、文化などの地理情報を整理・表示しています。

**分類**

- 小菅川の滝、淵等の名称と由来
- 丹波川・柳沢川の滝、淵等の名称と由来
- 多摩川源流・日原川 上流
- 多摩川源流・日原川 下流
- 日原川・長沢谷実踏調査
- 日原川・孫惣谷実踏調査 岩下谷
- 小川谷の滝や淵の名称と由来
- 倉沢谷の滝や淵の名称と由来
- 川奥り谷実踏調査
- 後山川
- 泉水谷・小室川
- 竜喰谷
- 大常木谷

キーワード

### 掲載している情報について

<p><b>多摩川源流・流域情報</b></p> <p>多摩川源流域を中心に、滝・淵などの地形や、「小菅の湯」などの観光資源、神社など歴史スポットの紹介をしています。</p>	<p><b>小菅村の地名とその由来</b></p> <p>小菅村内の8地区114の小字名について、その範囲を明示し、さらに地名の生まれてきた由来を紹介しています。</p> <p>出典資料：源流絵図小菅版</p>	<p><b>とうきゅう環境財団研究成果</b></p> <p>公益財団法人とうきゅう環境財団より提供を受けた多摩川およびその流域の環境保全・改善に関する調査・試験研究成果について、その研究の対象としている地点や地域を点や範囲で明示し、研究の概要を掲載しています。</p> <p>調査地点が複数ある場合や、広範囲にわたる場合は、調査地域を「上流」「中流」「下流」「全域」の6種類に分類して明示しています。</p> <p>資料提供 公益財団法人とうきゅう環境財団</p>
<p><b>多摩川の植物・お魚図鑑</b></p>	<p><b>多摩川流域水質情報</b></p> <p>現在の多摩川の水質の状況を単年度だけではなく時系列でみるができます</p> <p>資料提供：みずとみどり研究会</p>	<p><b>水辺の業校活動情報</b></p> <p>多摩川流域に10ある水辺の業校の活動範囲と行事を掲載しています。</p> <p>先行して、船江水辺の業校、せたがや水辺の業校、かわきき水辺の業校の情報を掲載しています（各水辺の業校のホームページの情報を掲載しています）</p>

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業  
 運営：小菅村 多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク  
 協力：多摩川流域懇談会 / NPO法人全国源流ネットワーク / 全国源流の里協議会



## 多摩川流域 情報マップ

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

多摩川流域情報マップでは、多摩川流域の自然環境、歴史、文化などの地理情報を整理・表示しています。

**分類**

- 小菅川の滝、淵等の名称と由来
- 丹波川・柳沢川の滝、淵等の名称と由来
- 多摩川源流・日原川 上流
- 多摩川源流・日原川 下流
- 日原川・長沢谷実踏調査
- 日原川・孫惣谷実踏調査 岩下谷
- 小川谷の滝や淵の名称と由来
- 倉沢谷の滝や淵の名称と由来
- 川東り谷実踏調査
- 後山川
- 栗水谷
- 小室川
- 竜城谷
- 大常木谷

キーワード

---

**不動滝** 全体を表示

深くて狭い谷にあって、最も雄大で風格のある滝が不動滝と呼ばれる。山や谷の守り神である「不動明王」への崇敬の念を表したも

---

**丸滝**

塩沢出合いから少し下流に大きくて丸い瀧がある。青々とした瀧には、沢山の魚連がいる。

---

**テンカン瀧** 全体を表示

地元の人がこの瀧で大物のヤマメをつり上げようとして格闘中にテンカンに落ちた。その場に卒倒してしまふ。その川原。この瀧

---

### 掲載している情報について

**多摩川源流・流域情報**

多摩川源流域を中心に、滝・淵などの地形や、「小菅の瀧」などの観光資源、神社など歴史スポットの紹介をしています。

**小菅村内の8地区11の  
小字名について、その範囲を  
図示し、さらに地名の  
生まれてきた由来を  
紹介しています。**

出典資料：源流絵図小菅版

**とうきゅう環境財団研究成果**

公益財団法人とうきゅう環境財団より提供を受けた多摩川およびその流域の環境保全・改善に関する調査・試験研究成果について、その研究の対象としている地点や地域を点や範囲で図示し、研究の概要を掲載しています。調査地点が複数ある場合や、広範囲にわたる場合は、調査地域を「上流」「中流」「下流」「上流・中流」「中流・下流」「全域」の6種類に分類して図示しています。

資料提供  
公益財団法人とうきゅう環境財団

**多摩川の植物・お魚図鑑**

**多摩川流域水質情報**

現在の多摩川の水質の状況を単年度だけではなく時系列でみることができます

資料提供：みずとみどり研究会

**水辺の学校活動情報**

多摩川流域に18ある水辺の学校の活動範囲と行事を掲載しています。

先行して、**積玉水辺の学校**、**せたがや水辺の学校**、**かわさき水辺の学校**の情報を掲載しています（各水辺の学校のホームページの情報を掲載しています）

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

運営：小菅村 多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク

協力：多摩川流域懇話会 / NPO法人全国源流ネットワーク / 全国源流の里協議会

**多摩川源流研究所**

## 多摩川流域 情報マップ

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

多摩川流域情報マップでは、多摩川流域の自然環境、歴史、文化などの地理情報を整理・表示しています。

**分類**

- 小菅川の滝、淵等の名称と由来
- 丹波川・柳沢川の滝、淵等の名称と由来
- 多摩川源流・日原川 上流
- 多摩川源流・日原川 下流
- 日原川・長沢谷実踏調査
- 日原川・孫惣谷実踏調査 岩下谷
- 小川谷の滝や淵の名称と由来
- 倉沢谷の滝や淵の名称と由来
- 川乗り谷実踏調査
- 後山川
- 泉水谷
- 小室川
- 竜噴谷
- 大常木谷

キーワード

**不動滝** 全体を表示

深くて険しい谷にあって、最も雄大で風格のある滝が不動滝と呼ばれる。山や谷の守り神である「不動明王」への畏敬の念を表したも

**丸淵**

堤沢出会いから少し下流に大きくて丸い淵がある。青々とした淵には、沢山の魚達がいる。

**テンカン淵** 全体を表示

地元の人がこの淵で大物のヤマメをつり上げようとして格闘中にテンカンに襲われ、その場に平倒し

### 掲載している情報について

**多摩川源流・流域情報**

多摩川源流域を中心に、滝・淵などの地形や、「小菅の湯」などの観光資源、神社など歴史スポットの紹介をしています。

**小菅村の地名とその由来**

小菅村内の8地区114の小字名について、その範囲を明示し、さらに地名の生まれしてきた由来を紹介しています。

出典資料：源流絵図小菅版

**とうきゅう環境財団研究成果**

公益財団法人とうきゅう環境財団より提供を受けました多摩川およびその流域の環境保全・改善に関する調査・試験研究成果について、その研究の対象としている地点や地域を点や範囲で明示し、研究の概要を掲載しています。

調査地点が複数ある場合や、広範囲にわたる場合は、調査地域を「上流」「中流」「下流」「上流・中流」「中流・下流」「全域」の8種類に分類して明示しています。

資料提供  
公益財団法人とうきゅう環境財団

**多摩川の植物・お魚図鑑**

**多摩川流域水質情報**

現在の多摩川の水質の状況を単年度だけではなく時系列でみることができます

資料提供：みずとみどり研究会

**水辺の楽校活動情報**

多摩川流域に13ある水辺の楽校の活動範囲と行事を掲載しています。

先行して、植江水辺の楽校、せたがや水辺の楽校、かわさき水辺の楽校の情報を掲載しています（各水辺の楽校のホームページの情報を掲載しています）

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業  
 運営：小菅村 多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク  
 協力：多摩川流域懇談会 / NPO法人全国源流ネットワーク / 全国源流の里協議会



## 多摩川流域 情報マップ

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

多摩川流域情報マップでは、多摩川流域の自然環境、歴史、文化などの地理情報を整理・表示しています。

**分類**

- 小菅川の滝、淵等の名称と由来
- 丹波川・柳沢川の滝、淵等の名称と由来
- 多摩川源流・日原川 上流
- 多摩川源流・日原川 下流
- 日原川・長沢谷実踏調査
- 日原川・孫惣谷実踏調査 岩下谷
- 小川谷の滝や淵の名称と由来
- 倉沢谷の滝や淵の名称と由来
- 川鼻り谷実踏調査
- 後山川
- 泉水谷・小室川
- 竜巻谷
- 大常木谷

キーワード

---

**不動滝** 全体を表示

深く険しい谷にあって、最も雄大で風格のある滝が不動滝と呼ばれる。山や谷の守り神である「不動明王」への畏敬の念を表したも

---

**丸淵**

塩沢出会いから少し下流に大きく丸い淵がある。昔々とした淵には、沢山の魚達がいる。

---

**テンカン淵** 全体を表示

地元の人がこの淵で大物のヤマメをつり上げようとして格闘中にテンカンに襲われ、その場に卒倒してしまふ。その淵は、この淵は

検索

地形 地図 航空写真 全画面



Google

**掲載している情報について**

**多摩川源流・流域情報**



多摩川源流域を中心に、滝・淵などの地形や、「小菅の湯」などの観光資源、神社など歴史スポットの紹介をしています。

**小菅村の地名とその由来**

小菅村内の8地区114の小字名について、その範囲を明示し、さらに地名の由来を紹介しています。

出典資料：源流絵図小菅版

**とうきゅう環境財団研究成果**

公益財団法人とうきゅう環境財団より提供を受けた多摩川およびその流域の環境保全・改善に関する調査・試験研究成果について、その研究の対象としている地点や地域を点や範囲で明示し、研究の概要を掲載しています。

調査地点が複数ある場合や、広範囲にわたる場合は、調査地域を「上流」「中流」「下流」「全域」の4種類に分類して明示しています。

資料提供  
公益財団法人とうきゅう環境財団

**多摩川の植物・お魚図鑑**



**多摩川流域水質情報**

現在の多摩川の水質の状況を単年度だけではなく時系列でみるができます

資料提供：みずとみどり研究会

**水辺の楽校活動情報**

多摩川流域に11ある水辺の楽校の活動範囲と行事を掲載しています。

先行して、箱江水辺の楽校、せたがや水辺の楽校、かわさき水辺の楽校の情報を掲載しています（各水辺の楽校のホームページの情報を掲載しています）

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

運営：小菅村 多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク

協力：多摩川流域懇話会 / NPO法人全国源流ネットワーク / 全国源流の里協議会



**多摩川源流研究所**

6

## 多摩川流域 情報マップ

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

多摩川流域情報マップでは、多摩川流域の自然環境、歴史、文化などの地理情報を整理・表示しています。

### 小菅村の地名とその由来



#### 本サイトについて



本サイト「多摩川流域 情報マップ」は、多摩川流域の地区、自治体情報や現流域のデータや諸情報を集約し、地図上に整理、表示、発信していきます。多摩川流域の市民、企業など、さまざまな人々の流域への興味関心が高まり、環境保全の輪が広がるきっかけになれば幸いです。

なお、本サイトの管理運営は「公益財団法人とうきゅう環境財団」の助成により「小菅村多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク」が行っております。

本サービスに関するご意見・ご質問などは[こちら](#)までご連絡下さい。

#### 掲載している情報について

<h4 style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px;">多摩川源流・流域情報</h4>  <p style="font-size: x-small;">多摩川源流域を中心に、滝・灘などの地形や、「小菅の湯」などの観光資源、神社など歴史スポットの紹介をしています。</p>	<h4 style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px;">小菅村の地名とその由来</h4> <p style="font-size: x-small;"><b>小菅村内の114地区114の小字名について、その範囲を明示し、さらに地名の由来を説明しています。</b></p> <p style="font-size: x-small;">出典資料：源流絵図小菅版</p>	<h4 style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px;">とうきゅう環境財団研究成果</h4> <p style="font-size: x-small;">公益財団法人とうきゅう環境財団より提供を受けた多摩川およびその流域の環境保全・改善に関する調査・試験研究成果について、その研究の対象としている地点や地域を点や範囲で明示し、研究の概要を掲載しています。調査地点が複数ある場合や、広範囲にわたる場合は、調査地域を「上流」「中流」「下流」「全域」の4種類に分類して明示しています。</p> <p style="font-size: x-small; text-align: right;">資料提供 公益財団法人とうきゅう環境財団</p>
<h4 style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px;">多摩川の植物・お魚図鑑</h4> 	<h4 style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px;">多摩川流域水質情報</h4> <p style="font-size: x-small;">現在の多摩川の水質の状況を単年度だけではなく時系列でみることができます</p> <p style="font-size: x-small;">資料提供：みずとみどり研究会</p>	<h4 style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px;">水辺の楽校活動情報</h4> <p style="font-size: x-small;">多摩川流域に13ある水辺の楽校の活動範囲と行事を掲載しています。</p> <p style="font-size: x-small;">先行して、<b>稲江水辺の楽校</b>、<b>せたがや水辺の楽校</b>、<b>かわさき水辺の楽校</b>の情報を掲載しています（各水辺の楽校のホームページの情報を掲載しています）</p>

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

運営：小菅村 多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク

協力：多摩川流域懇談会 / NPO法人全国源流ネットワーク / 全国源流の里協議会

### 多摩川源流研究所





## 多摩川流域 情報マップ

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

多摩川流域情報マップでは、多摩川流域の自然環境、歴史、文化などの地理情報を整理・表示しています。

東部

### 小菅村の地名とその由来

戻る



#### 本サイトについて



本サイト「多摩川流域 情報マップ」は、多摩川流域の地区、自治体情報や流域のデータや諸情報を集約し、地図上に整理、表示、発信していきます。多摩川流域の市民、企業など、さまざまな人々の流域への興味関心が高まり、環境保全の輪が広がるきっかけになれば幸いです。

なお、本サイトの管理運営は「公益財団法人とうきゅう環境財団」の助成により「小菅村多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク」が行っております。

本サービスに関するご意見・ご質問などは[こちらまで](#)ご連絡下さい。

#### 掲載している情報について

#### 多摩川源流・流域情報



多摩川源流域を中心に、滝・灘などの地形や、「小菅の湯」などの観光資源、神社など歴史スポットの紹介をしています。

#### 小菅村の地名とその由来

小菅村内の8地区11の  
小字名について、その範囲を  
図示し、さらに地名の  
生まれしてきた由来を  
紹介しています。  
出典資料：源流絵図小菅版

#### とうきゅう環境財団研究成果

公益財団法人とうきゅう環境財団より提供を受けた多摩川およびその流域の環境保全・改善に関する調査・試験研究成果について、その研究の対象としている地点や地域を点や範囲で図示し、研究の概要を掲載しています。調査地点が複数ある場合や、広範囲にわたる場合は、調査地域を「上流」「中流」「下流」「上流・中流」「中流・下流」「全域」の8種類に分類して図示しています。

資料提供  
公益財団法人とうきゅう環境財団

#### 多摩川の植物・お魚図鑑



#### 多摩川流域水質情報

現在の多摩川の水質の状況を単年度だけではなく時系列でみるができます  
資料提供：みずとみどり研究会

#### 水辺の楽校活動情報

多摩川流域に10ある水辺の楽校の活動範囲と行事を掲載しています。  
先行して、船江水辺の楽校、またがや水辺の楽校、かわきき水辺の楽校の情報を掲載しています（各水辺の楽校のホームページの情報を掲載しています）

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業  
運営：小菅村 多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク  
協力：多摩川流域懇談会 / NPO法人全国源流ネットワーク / 全国源流の里協議会



### 多摩川源流研究所

## 多摩川流域 情報マップ

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

多摩川流域情報マップでは、多摩川流域の自然環境、歴史、文化などの地理情報を整理・表示しています。

### とうきゅう環境財団研究成果



### 本サイトについて



本サイト「多摩川流域 情報マップ」は、多摩川流域の地区、自治体情報や現流域のデータや踏情報を集約し、地図上に整理、表示、発信していきます。  
多摩川流域の市民、企業など、さまざまな人々の流域への興味関心が高まり、環境保全の輪が広がるきっかけになれば幸いです。

なお、本サイトの管理運営は「公益財団法人とうきゅう環境財団」の助成により「小菅村多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク」が行っております。

本サービスに関するご意見・ご質問などは[こちらまで](#)ご連絡下さい。

### 掲載している情報について

#### 多摩川源流・流域情報

多摩川源流域を中心に、滝・潭などの地形や、「小菅の湯」などの観光資源、神社など歴史スポットの紹介をしています。

#### 小菅村の地名とその由来

小菅村内の8地区11の小字名について、その範囲を図示し、さらに地名の生れてきた由来を紹介しています。  
出典資料：源流絵図小菅版

#### とうきゅう環境財団研究成果

公益財団法人とうきゅう環境財団より提供を受けた多摩川およびその流域の環境保全・改善に関する調査・試験研究成果について、その研究の対象としている地点や地域を点や範囲で図示し、研究の概要を掲載しています。  
調査地点が複数ある場合や、広範囲にわたる場合は、調査地域を「上流」「中流」「下流」「上流・中流」「中流・下流」「全域」の6種類に分類して図示しています。

資料提供  
公益財団法人とうきゅう環境財団

#### 多摩川の植物・お魚図鑑

#### 多摩川流域水質情報

現在の多摩川の水質の状況を単年度だけではなく時系列でみることができます  
資料提供：みずとみどり研究会

#### 水辺の楽校活動情報

多摩川流域に18ある水辺の楽校の活動範囲と行事を掲載しています。  
先行して、稲江水辺の楽校、せたがや水辺の楽校、かわさき水辺の楽校の情報を掲載しています（各水辺の楽校のホームページの情報を掲載しています）

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業  
運営：小菅村 多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク  
協力：多摩川流域懇談会 / NPO法人全国源流ネットワーク / 全国源流の里協議会



## 多摩川流域 情報マップ

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

多摩川流域情報マップでは、多摩川流域の自然環境、歴史、文化などの地理情報を整理・表示しています。

### とうきゅう環境財団研究成果

戻る

リスト一覧を見る

#### 本サイトについて

本サイト「多摩川流域 情報マップ」は、多摩川流域の地区、自治体情報や現流域のデータや諸情報を集約し、地図上に整理・表示、発信していきます。  
多摩川流域の市民、企業など、さまざまな人々の流域への興味関心が高まり、環境保全の輪が広がるきっかけになれば幸いです。

なお、本サイトの管理運営は「公益財団法人とうきゅう環境財団」の助成により「小菅村多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク」が行っております。

本サービスに関するご意見・ご質問などは[こちらまで](#)ご連絡下さい。

掲載している情報について

**多摩川源流・流域情報**

多摩川源流域を中心に、滝・淵などの地形や、「小菅の湯」などの観光資源、神社など歴史スポットの紹介をしています。

**小菅村の地名とその由来**

小菅村内の6地区内の小字名について、その範囲を图示し、さらに地名の由来を説明しています。

出典資料：源流絵図小菅版

**とうきゅう環境財団研究成果**

公益財団法人とうきゅう環境財団より提供を受けた多摩川およびその流域の環境保全・改善に関する調査・試験研究成果について、その研究の対象としている地点や地域を点や範囲で图示し、研究の概要を掲載しています。

調査地点が複数ある場合や、広範囲にわたる場合は、調査地域を「上流」「中流」「下流」「上流・中流」「中流・下流」「全域」の6種類に分類して图示しています。

資料提供  
公益財団法人とうきゅう環境財団

**多摩川の植物・お魚図鑑**

**多摩川流域水質情報**

現在の多摩川の水質の状況を単年度だけではなく時系列でみることが出来ます

資料提供：みずとみどり研究会

**水辺の楽校活動情報**

多摩川流域に18ある水辺の楽校の活動範囲と行事を掲載しています。

先行して、経江水辺の楽校、せたがや水辺の楽校、かわさき水辺の楽校の情報を掲載しています（各水辺の楽校のホームページの情報を掲載しています）

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業  
運営：小菅村 多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク  
協力：多摩川流域懇談会 / NPO法人全国源流ネットワーク / 全国源流の里協議会

多摩川源流研究所

## 多摩川流域 情報マップ

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

多摩川流域情報マップでは、多摩川流域の自然環境、歴史、文化などの地理情報を整理・表示しています。

### 多摩川の植物・お魚図鑑



#### 本サイトについて



本サイト「多摩川流域 情報マップ」は、多摩川流域の地区、自治体情報や現流域のデータや諸情報を集約し、地図上に整理、表示、発信していきます。多摩川流域の市民、企業など、さまざまな人々の流域への興味関心が高まり、環境保全の輪が広がるきっかけになれば幸いです。

なお、本サイトの管理運営は「公益財団法人とうきゅう環境財団」の助成により「小菅村多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク」が行っております。

本サービスに関するご意見・ご質問などは[こちらまで](#)ご連絡下さい。

#### 掲載している情報について

<h5 style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px;">多摩川源流・流域情報</h5>  <p style="font-size: x-small;">多摩川源流域を中心に、滝・淵などの地形や、「小菅の湯」などの観光資源、神社など歴史スポットの紹介をしています。</p>	<h5 style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px;">小菅村の地名とその由来</h5> <p style="font-size: x-small;">小菅村内の8地区114の小字名について、その範囲を図示し、さらに地名の生まれてきた由来を紹介しています。</p> <p style="font-size: x-small;">出典資料：源流絵図小菅版</p>	<h5 style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px;">とうきゅう環境財団研究成果</h5> <p style="font-size: x-small;">公益財団法人とうきゅう環境財団より提供を受けた多摩川およびその流域の環境保全・改善に関する調査・試験研究成果について、その研究の対象としている地点や地域を点や範囲で図示し、研究の概要を掲載しています。</p> <p style="font-size: x-small;">調査地点が複数ある場合や、広範囲にわたる場合は、調査地域を「上流」「中流」「下流」「上流・中流」「中流・下流」「全域」の8種類に分類して図示しています。</p> <p style="font-size: x-small; text-align: right;">資料提供 公益財団法人とうきゅう環境財団</p>
<h5 style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px;">多摩川の植物・お魚図鑑</h5> 	<h5 style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px;">多摩川流域水質情報</h5> <p style="font-size: x-small;">現在の多摩川の水質の状況を単年度だけではなく時系列でみることが出来ます</p> <p style="font-size: x-small;">資料提供：みずとみどり研究会</p>	<h5 style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px;">水辺の楽校活動情報</h5>  <p style="font-size: x-small;">多摩川流域に18ある水辺の楽校の活動範囲と行事を掲載しています。</p> <p style="font-size: x-small;">先行して、<a href="#">沼津水辺の楽校</a>、<a href="#">せたがや水辺の楽校</a>、<a href="#">かわさき水辺の楽校</a>の情報を掲載しています (各水辺の楽校のホームページの情報を掲載しています)</p>

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業  
 運営：小菅村 多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク  
 協力：多摩川流域懇談会 / NPO法人全国源流ネットワーク / 全国源流の里協議会



### 多摩川源流研究所

## 多摩川流域 情報マップ

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

多摩川流域情報マップでは、多摩川流域の自然環境、歴史、文化などの地理情報を整理・表示しています。

### 多摩川の植物・お魚図鑑

戻る

植物を見る

お魚を見る

春の植物
夏の植物
秋の植物



<p><b>夏</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネジバナ</li> <li>カワラサイコ</li> <li>ヒルガオ</li> <li>カワラニガナ</li> <li>ヒメジョオン</li> <li>テリハノイバラ</li> <li>コゴメバオトギリソウ</li> <li>ヤブカラシ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハルシャギク</li> <li>ヤブカンゾウ</li> <li>ヘクソカズラ</li> <li>ツククサ</li> <li>ミソソバ</li> <li>ママコノシリスグイ</li> <li>コマツヨイグサ</li> <li>カントウヨメナ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケズ</li> <li>センニンソウ</li> <li>カラスウリ</li> <li>ソルマメ</li> <li>ミスヒキ</li> <li>ツルボ</li> <li>アレチウリ</li> </ul>
--	---	---

#### 本サイトについて



本サイト「多摩川流域 情報マップ」は、多摩川流域の地区、自治体情報や現流域のデータや諸情報を集約し、地図上に整理、表示、発信していきます。多摩川流域の市民、企業など、さまざまな人々の流域への興味関心が高まり、環境保全の輪が広がるきっかけになれば幸いです。

なお、本サイトの管理運営は「公益財団法人とうきゅう環境財団」の助成により「小菅村多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク」が行っております。

本サービスに関するご意見・ご質問などは[こちらまで](#)ご連絡下さい。

#### 掲載している情報について

#### 多摩川源流・流域情報



多摩川源流域を中心に、滝・淵などの地形や、「小菅の湯」などの観光資源、神社など歴史スポットの紹介をしています。

#### 小菅村の地名とその由来

小菅村内の8地区11の小字名について、その範囲を明示し、さらに地名の由来や由来を説明しています。

出典資料：源流給園小菅版

#### とうきゅう環境財団研究成果

公益財団法人とうきゅう環境財団より提供を受けた多摩川およびその流域の環境保全・改善に関する調査・試験研究成果について、その研究の対象としている地点や地域を点や範囲で明示し、研究の概要を掲載しています。

調査地点が複数ある場合や、広範囲にわたる場合は、調査地域を「上流」「中流」「下流」「全域」の4種類に分類して明示しています。

資料提供  
公益財団法人とうきゅう環境財団

#### 多摩川の植物・お魚図鑑



#### 多摩川流域水質情報

現在の多摩川の水質の状況を単年度だけではなく時系列でみるができます

資料提供：みずとみどり研究会

#### 水辺の楽校活動情報

多摩川流域に18ある水辺の楽校の活動範囲と行事を掲載しています。

先行して、箱江水辺の楽校、せたがや水辺の楽校、かわさき水辺の楽校の情報を掲載しています(各水辺の楽校のホームページの情報を掲載しています)

公益財団法人とうきゅう環境財団 助成事業

運営：小菅村 多摩川源流研究所 / 多摩川流域ネットワーク

協力：多摩川流域懇談会 / NPO法人全国源流ネットワーク / 全国源流の里協議会

### 多摩川源流研究所



12

### (3) WEBGISに関する調査・研究の実施内容

#### 1) 平成24年1月公開のWEBGISに欠陥発覚

平成23年度において、多摩川源流域の滝・淵などの地形や「小菅の湯」などの観光資源、神社などの歴史スポットの紹介、小菅村の地名と由来、とうきゅう環境財団の研究成果の上流、中流、下流の分類、多摩川流域水質調査と経年変化の図示化、水辺の楽校活動情報など4分野をデータ化し、入力して平成24年1月に「多摩川源流・流域情報マップ」としてWEBGISを公開する事が出来た。平成20年に小菅村で開始した内閣府支援の「地方の元気再生事業」から始められた多摩川流域環境保全データベース検証用WebGISのシステムづくりの第一歩が踏み出されたと確信した。

ところが、公開してみると、誰からも閲覧して内容が確認できたという感想が届かなかった。3ヶ月経っても事務局も見ることができず、自分たちの技術力のなさからアクセス出来ないと自らを責めていた。その後、技術力のある方に相談したところ、公開されたウェブGISに関しては現状のユーザーの50%程度しかカバーできないこと、SVGViewerプラグインが必須であること、SVGViewerプラグインを提供しているadobe社は、すでにサポートを終了していること、説明書を読まなければ操作できないことなど重大な欠陥があることが判明し、事務局として操作性に関する改善案を提案したが、構造上機能的に改善できないことなどが分かった。

#### 2) 平成25年9月1日に新しいWEBGISを構築し公開

こうした現状を分析して、事務局として、1、このままでは公開に値しない。2、万人が見られるものでなければならぬとの結論に達して、グーグルを基盤にした新しい多摩川流域環境保全データベース検証用WebGISの構築に取り組むことにし、高橋先生、新藤先生の批判とアドバイスのもと、調査・研究の期間の延長を申込み、等高線を組み込んだ地形地図も新たに作成し困難な挑戦に取りかかった。本事業の名称も「多摩川源流ミュージアム」から源流の情報を中心としながらも「多摩川流域情報マップ」と親しみやすいものに変更し、環境保全データを重視する視点から新たにこまね水辺の楽校代表の竹本久志さん・俳優の中本賢さん作成の「多摩川の植物図鑑」「多摩川のお魚図鑑」のデータを提供して頂き、より充実した内容に平成25年9月1日に公開することができた。

今回のサイトは、1、多摩川源流・流域情報（多摩川源流域を中心に滝・淵などの地形、小菅の湯などの観光資源、神社などの歴史スポットの紹介）、2、小菅の地名とその由来（小菅の8地区114の小字名とその範囲を図示し地名の生まれてきた由来の紹介）、3、とうきゅう環境財団の研究成果（研究成果を上流・中流・下流に分類して図示）、4、多摩川の植物図鑑・お魚図鑑（著者：竹本久志・中本賢）、5、多摩川流域水質情報（全国一斉水質

調査のうちの多摩川流域エリアの実績図示及び経年変化のグラフ)、6、水辺の楽校活動情報(流域16市区村、19校が集う水辺の楽校ネットワークの活動紹介)の6分野から構成されている。予算の関係で現時点では源流域の2分野しか機能していない。

### 3)「多摩川流域情報マップ」に反響

9月1日付けで公開されたWebGIS「多摩川流域情報マップ」を閲覧した方々から、「トップページが綺麗で目的や内容が分かりやすい」「知りたい情報へのアクセスが簡単である」「これなら誰でもアクセス出来る」「源流絵図の可視化は授業でも活用できる」「地形図には、等高線が出ていますので、位置として目安になる。緯度経度を入れて、ポイントが登録できるようになると資源のデータ化がより正確になる」「タグに説明と共に写真があるとグレードが上がる」等新たな提案も寄せられている。事業の継続が認められれば、それぞれの分野を充実させて、多摩川の自然環境を保全しようと願う市民に必要な情報の提供が可能となる。

本サイトの公開によって本来の目的である源流の可視化プロジェクトに大いに活用できる道が開かれた。「多摩川源流・流域情報」サイトに関して、地形図にアクセスし、淵や滝のタグを覗くと等高線が視野にはいり、高さや位置が正確に把握できる。国道139号線の松姫峠も標高1250付近に位置することが分かり、鶴寝山からオオマトイ山に向けて標高1300上の同じ高さにあることが読み取れる。この牛ノ寝通りの一帯は自然的文化的資源に恵まれており、地図上にこの資源の一つ一つが可視化できる方法と手段が目の前に開かれたわけである。

### 4)本サイトを活用した環境保全活動を一層進展へ

地球温暖化が急速に進展する中、源流域の森林整備など環境保全活動はますます重要になっている。シカの食害調査や対策、源流景観資源調査の成果を活かした地域づくりなど本サイトを活用した環境保全活動や流域連携活動などの進展をより一層図っていきたい。

#### (4) 多摩川源流資源調査の取り組みについて

平成23年度から24年度にかけて多摩川流域環境保全データベース検証用WebGIS構築に関するシステムづくりに合わせてWEBGISの内容面での深化をめざして、小菅村を中心とする多摩川源流域の資源調査に取り組んだ。1つは、小菅村源流景観資源調査であり、2つ目は小菅村源流古道資源調査～源流域の文化と民族・伝承に関する調査～、3つ目は源流域の自然に関する写真のデジタル化である。これらの取り組みは今後の源流の可視化事業にとって重要な構成要素となるものである。

##### 1) 小菅村源流景観資源調査と研究について

小菅村には、多摩川流域に小永田地区、白沢地区、中組地区、東部地区、田元地区、川池地区、橋立地区の7地区があり、相模川水系の鶴川流域に長作地区がある。この8地区の徹底した景観資源調査を実施した。その調査の概要と小菅村の景観特性をまとめた。続いて、小菅村における良好な景観形成及び小菅村の景観形成目標、小菅村源流景観基本方針に基づく目標、各地区の良好な景観形成についての調査研究の内容に触れる。

##### 長作地区の概要

	□世帯数	□居住人数
2006年(平成18年)	30世帯	66名
2011年(平成23年)	27世帯	60名

(小字) 鶴峠 栗山 奥ノ茅 コヤケ 御堂街道 神楽 神楽入 吉原 牛飼  
大長作 小米沢 打越 倉骨 長作 前原 前原上 森向 森の上  
井戸沢 秋切

##### 長作地区の景観特性

長作は相模川水系の支流である鶴川の源流域にある。集落には鎌倉時代中期に建立された国の重要文化財である「長作観音堂」がある。神楽入りの古観音から県の発掘調査で平安時代の遺跡が発見された。また、巨木が林立する「御鷹神社」や交流施設「寺子屋自然塾」がある。

##### 農産物

農地所有世帯数は21戸あり、最大面積は1㍍、0.1～0.3㍍の所有規模層が全体の半数以上。作付け品種は露地野菜、イモ類、ソバなどが中心に栽培されている。特に、古くから栽培されているふじ種の保存は貴重である。耕作放棄地がある世帯は17戸あり、耕作放棄地が増加している。耕作放棄の理由は、耕作者の高齢化と獣害による被害が主である。

##### 林業



森林所有世帯は、15戸であり、5戸未満の小規模所有層が6戸で、25～65戸の中規模所有層は5戸。ほとんどが、戦後の拡大造林の時期に植林された45～55年生のものが多い。手入れの行き届かない森林が多くなっている。

集落の見所 長作観音堂 御鷹神社 神楽入り 寺子屋自然塾

郷土料理 ソバ コンニャク けんちん汁 ジャガイモの煮転がし 大福 まんじゅう  
山菜おこわ さわび漬

### 小永田地区の概要

	□世帯数	□居住人数
2006年（平成18年）	46世帯	86名
2011年（平成23年）	41世帯	89名

（小字） 小永田 小永田上 水ノ久保 沢入 ハケ ハケ沢 吉野 浅久保 板東  
板東別路 日向サス 浄進場 奈良倉 大白沢 事枿 横道 釜土沢  
ハイマゼ

### 小永田地区の景観特性

小永田地区は、国道139号線と県道上野原・丹波山線が交差する道沿いに集落がある。南向きのなだらかな斜面に家と畑が配置されている。事枿から集落が発生したとも伝えられ、高台に熊野神社が鎮座している。この神社では毎年神楽が9月の第1土曜に奉納される。松姫トンネルの入り口に位置し、大月方面との玄関口である。小永田、吉野、浅久保の3つの字から構成されている。

### 農地

農地所有世帯数は24戸である。最大で1戸、0.1戸未満の所有規模層が多い。物産館への出荷農家は2戸であり、コンニャク、ソバ、露地栽培の野菜などである。農地所有者24戸のうち、耕作放棄地がある家は10戸で約4割。所有面積の2～4割程度が耕作放棄地となっている。放棄の理由は、高齢化が主である。今後とも放棄地は増える傾向にある。

### 林業

森林所有者は18戸であり、5戸未満の小規模所有層が3戸、10戸～80戸までの中規模所有層が5戸である。間伐などの施業が終わった所有者は5戸で残りは手入れが行き届かず、所有面積不明が8戸ある。自宅から森林までの距離が比較的近いこともあり、所有者は比較的良好に森を見に行っている。緑のボランティアへの森林提供にも好意的である。

集落の見所 熊野神社 神楽 自然 モミジ 石垣 浅間神社

郷土料理 けんちん汁 コンニャク。

## 白沢地区の概要

	□世帯数	□居住人数
2006年（平成18年）	19世帯	57名
2011年（平成23年）	17世帯	52名

（小字） 井戸入 作ノ宮 白沢夏地 白沢 ムッカ 降矢戸 エボシ 笹畑 発沢

## 白沢地区の景観特性

小菅川の支流、白沢川沿いに集落が分布している。旧青梅街道が通っていた地区で、上野原や奥多摩、青梅には交通の便がよい。平成8年まで開校していた白沢分校には、白沢、小永田、余沢の児童達が通学していた。平成19年に開校した源流大学は、交流の拠点となっていて、多摩川流域全体から注目されている。また、集落から北側に外れた場所に「原始村」という観光施設がある。

## 農地

農地所有世帯数は15戸で、面積では最大所有が2.3㌍、0.1㌍～0.5㌍の所有規模層が多い。農産物の出荷はすくなく、作付けされている品種は露地野菜、コンニャク、ソバ等である。農地所有15戸のうち耕作放棄地のある家は11戸。所有面積の2～5割程度が耕作放棄地。放棄の理由は、従事者の高齢化、後継者不足。原始村のソバは美味しいと定評があり、年配の女性はほとんどがそば打ちができる。近年、フルヤドでマコモタケが栽培され注目されている。

## 林業

森林所有世帯は11戸であり、5㌍未満の小規模所有層が6戸、15㌍～65㌍までの中規模所有層が4戸、100㌍以上の大規模所有層が1戸となっている。殆どの人工林が40～50年生であるが、中・大規模層では、80～100年生以上のスギ林を所有している。専業林家が1戸あり、素材生産業を営んでおり、平均して年間300立方㌍生産している。

集落の見所 原始村 源流大学 水車 白沢滝 街並み お薬師様  
郷土料理 ソバ こんにゃく料理 けんちん汁

## 中組地区の概要

	□世帯数	□居住人数
2006年（平成18年）	57世帯	160名
2011年（平成23年）	62世帯	140名

（小字） 山沢 ヒナテ 山沢入 山沢向 大六天 タノモクリ 大久保 梅の木平  
マフジ久保 井狩 井狩原 コセド 川上沢

### 中組地区の景観特性

中組地区は、小菅村の中心にある。平成6年に多摩源流こすげの湯が建設され、村内の観光施設として重要な位置を占めており、集客力の要になっている。物産館は、地域住民が農産物を出荷することで現金収入獲得の場となっている。また、この地区にも村営住宅があり、若い世代の入居者がある。井狩、山沢、大久保の3つの字から構成されている。

#### 農地

農地所有世帯数は20戸となっており、所有面積は、最大が3.5㍍であるが、大半が0.1～0.3㍍の所有規模層が多い。物産館に隣接していることもあり、農産物を出荷している世帯が、他の地区と比べると多い。販売額は、年間15万程度が多く、それほどの収入源になっていないようで、作付け品種は、露地野菜、コンニャク、ソバなどである。耕作放棄地がある世帯は、11戸で、所有面積の2～5割程度が耕作放棄地となっている。

#### 林業

森林所有世帯は、22戸であり、所有面積は他地区と比べて所有面積が大きい。10㍍～50㍍の中規模所有層の世帯が多い。ほとんどが、スギヤヒノキの人工林で、戦後の拡大造林の時期に植林された40～50年生のものが多い。育林状況は、基本は自家労働力である。林業収入は全世帯で全くない状況で、間伐などの管理が行き届かない林地が増えている。交流事業に関しては、全ての世帯が好意的である。北都留森林組合の小菅事業所がこの地区にある。

集落の見所　こすげの湯　三つ子山　ワサビ田　室　炭焼き窯  
郷土料理　けんちん汁　ソバ

### 東部地区の概要

	□世帯数	□居住人数
2006年（平成18年）	40世帯	120名
2011年（平成23年）	36世帯	93名

（小字）　日向金風呂　大成　梅ノ木久保　姥ガ懐　大茶ア　大夏地　下夕畑　高橋平  
タンノカヤ　玉川　セト　余沢　棚沢

### 東部地区の景観特性

東部地区は、小菅村の東端にあり、国道139号線で奥多摩町に接している。地区内には、東部森林公園キャンプ場と玉川キャンプ場があり、多摩川流域との交流の場になっている。支流の玉川は、三頭山から流れ下る清流で、源頭付近の池ノ平には、伝説が伝わり、都有林には大栃が生えている。余沢、大成、金風呂の3つの字から構成されている。

#### 農地

農地所有世帯は、15戸であり、面積では最大でも0.6㌧で、小規模所有世帯が多く、大半が自家用で露地野菜やジャガイモなどの芋類を栽培している。農地所有世帯のうち、耕作放棄地がある世帯は、9戸で約6割になっている。耕作放棄面積は、所有面積に対して2～5割程度となっている。耕作放棄の時期は平成10年前後に多く発生している。

#### 林業

森林所有面積は21戸であり、5㌧未満の小規模所有層が11戸、10～100㌧までの中規模所有層が4戸、100㌧以上の大規模所有層が1戸となっている。スギやヒノキの人工林で40～50年生のものが多く、育林に関しては、基本は自家労働力で行っており、管理が行き届かない山地が増えている。

集落の見所 森林公園・玉川キャンプ場 御嶽神社のケヤキ

郷土料理 ソバ こんにやく料理 けんちん汁（ほうとう）

#### 田元地区の概要

	□世帯数	□居住人数
2006年（平成18年）	38世帯	105名
2011年（平成23年）	33世帯	69名

（小字） 淀 高淀 ドウドコロ 転石 竹ノ沢 平山 腰超 田元 池ノ尻川原  
田元上 田元原

#### 田元地区の景観特性

小菅村の中心からやや東寄りであるが、村内では比較的利便性の高い地区である。小菅川と国道に沿って集落があり、地区の東側には村営住宅が建設されており、村外からの移住者が多い。国道沿いの桜並木はみごとである。

#### 農地

農地所有世帯数は9戸となっており、集落の世帯数に占める割合は他と比べて少ない。所有面積では最大が1㌧であるが、そのほかは0.2㌧程度となっている。小規模所有が多く、家から畑まで離れている家が多い。作付け品種は露地野菜などが中心に栽培されている。耕作放棄地がある世帯は、5戸あり、所有面積の5割程度が耕作放棄地となっている。耕作放棄の理由は、ほとんどが高齢者であり、高齢により耕作できなくなったという。

#### 林業

森林所有世帯は、18戸であり、5㌧未満の小規模所有層が9戸と半数を占め、最大で10㌧となっている。また、所有規模が分からないとする世帯が7戸あり、高齢者の世帯でも

所有面積が不明となっている場合が多い。さらに、これらの所有者は山の境界が不明瞭になっていることが多い。ほとんどが、スギやヒノキの人工林で、戦後の拡大造林の時期に植林された 40～50 年生のものが多い。育林状況は、基本は自家労働力であるが、下刈りは施業済みであるが、間伐は行われていないところが多い。

集落の見所 御所車 桜並木 平山キャンプ場 わき水と小川  
郷土料理 ソバ コンニャク

## 川池地区の概要

	□世帯数	□居住人数
2006年（平成18年）	78世帯	200名
2011年（平成23年）	79世帯	181名

（小字） 池ノ尻 ナツチ 小峯 獅子倉 川久保 カズ久保 イツ沢 今川 日向今川  
宮川 岩花 川久保向

## 川池地区の景観特性

小菅川の左岸に商店街、旅館、役場、小学校、中学校、保育園、診療所、郵便局、農協など小菅村の中心部を構成する。国道139号線と県道上野原丹波山線が通過し、交通の要衝にもなっている。箭弓神社や天神山、三ヶ村のお祭りがあり、古菅、藤木、小泉、広瀬など旧家も多い。

## 農地

農地所有世帯数は28戸となっており、地区の約4割の世帯数である。所有面積は0.5～0.1畝の所有であり、平均約0.2畝となっている。作付け品種は露地野菜やジャガイモ、コンニャクなどが栽培されている。耕作放棄地がある世帯は6戸あり、所有面積の5割程度が耕作放棄地となっている。耕作放棄の理由は、農産物価格の下落による採算性の悪化と耕作者の高齢化が主な理由である。

## 林業

森林所有世帯は、27戸であり、5畝未満の小規模所有層が18戸で、最大で20畝となっている。また、所有規模が分からないとする世帯が7戸あり、こうした所帯では境界が伝えられていないケースもある。スギやヒノキの人工林で、戦後の拡大造林の時期に植林された45～55年生のものが多い。育林状況は、基本は自家労働力である。また、森林の訪問回数について殆どの所有者がこの数年ない状況である。

集落の見所 箭弓神社や天神山 博物館 亀井旅館本館 村民体育館  
郷土料理 ソバ コンニャク

#### 橋立地区の概要

	□世帯数	□居住人数
2006年（平成18年）	60世帯	171名
2011年（平成23年）	56世帯	142名

（小字） 中川原 天ノ久保 上の山 橋立 上割間 中丸 西沢 清水竹ノカヤ 小仏  
小沢 甲斐渡戸 田口 川入 橋立向 鯨沢 菅平

#### 橋立地区の景観特性

小菅村の最西部に位置し、小菅川の左岸に集落が広がっている。集落の背後には、上の山（急傾斜な畑）が天に向かって伸びており、源流の厳しい暮らしが生み育てた独特な景観が存在する。畑では、コンニャクが作られている。

#### 林業

森林所有世帯は、37戸であり、5畝未満の小規模所有層が10戸、5畝～15畝は6戸、20畝～50畝は4戸、90畝は1戸、不明16戸である。森林の大部分は、スギやヒノキの人工林であり、戦後の拡大造林の時期に植林されたものが多い。同時に、都有林に隣接していることもあり、その影響を受け百年のスギやヒノキの美林もある。造林業者や枝打ち名人も現存し、村内唯一の製材所もある等林業の歴史も残る。

集落の見所 神楽 街並み 急傾斜地の畑 八幡様 白糸の滝 雄滝  
郷土料理 けんちん汁 おぼく コンニャク ソバ 川魚の煮付け

#### 小菅村における良好な景観形成のイメージ

－四季折々に花が咲き源流の景観と暮らしが息づく小菅村－

- ①ふるさとの景観を守り、自然と調和した村
- ②もてなしの心に触れ、来訪者の笑顔が溢れる村
- ③みどりと清流を育み、流域とともに生きる源流の村
- ④すべての村民と連携した、参加と協働の景観づくりが進む小菅村へ
- ⑤一人一役を合い言葉に、みんなで育てる花々が咲きほこる小菅村

## 良好な源流景観形成に関する方針

### 【理念と目標】

「四季折々に花が咲き、源流の景観と暮らしが息づく小菅村」  
～源流本来の豊かさと美しさが満喫できるむら～

### 小菅村源流景観基本方針に基づく目標

小菅村における景観形成は、「源流らしさ」「小菅らしさ」の郷づくりを実現するために取り組みます。具体的な目標として、自然と人の根源的な関わりが見えるような景観づくりを行います。

何よりも源流でしか見られない自然資源を発掘し、これを保全、整備します。また、家並み、街並みなどを源流の村にふさわしい景観に整えます。

#### 1. 山岳風景や雄大な自然などの源流景観を保全・活用する

- ①源流から学び、源流を守り、源流を活かします。
- ②水を守り、森を守り、美しい風景を守ります。
- ③豊かな植生と生き物の生息環境を保全し活用します。
- ④美しい山岳景観と優れた眺望景観を保全・活用します。
- ⑤流域の市民が集える自然とのふれあいの場を整備します。
- ⑥高い尾根に優れた眺望景観を整備します。
- ⑦橋立のカケジク畑を源流景観のシンボルとして保全・活用します。
- ⑧源流景観保全基金を創設します。

#### 2. 源流らしい森林景観づくりをすすめる

- ①森林と人のかかわりが見える景観づくりを基本とします。
- ②間伐や枝打ちをすすめ、美しい健康的な人工林に整備します。
- ③森林作業道を開設し木材の活用と林業の振興に取り組みます。
- ④「蘇れ広葉樹の森」を掲げ広葉樹の活用と苗作りをすすめます。
- ⑤道路の周辺には、良好な景観形成のためグリーンベルト帯を設けます。
- ⑥松姫峠周辺などに森林浴等が楽しめる散策コースを整備します。
- ⑦木づかい文化のシンボルである村民体育館を積極的にアピールします。
- ⑧明るい森をつくり豊かな生態系を育む場に変えていきます。
- ⑨針広混交林の造成や作業道の開設など多様な森林整備に取り組みます。
- ⑩大規模な皆伐を避け景観を損なうことがないよう配慮します。

3. 自然の復元力を活かした河川景観づくりを進める。
  - ①源流らしさが目に見える川づくりを進めます。
  - ②川の姿が見えるよう周辺の環境整備に取り組みます。
  - ③川の本来の機能が発揮できる河川景観づくりに取り組みます。
  - ④村営釣り場や宮川などを多自然川づくりの手法で整備します。
  - ⑤生きる知恵、遊び、自然体験などと連結する場として整備します。
  - ⑥源流体験のコースは、安全確保と良好な景観づくりを図ります。
  - ⑦治水上支障のない範囲で護岸の工法や素材を改善します。
  - ⑧高水敷は、支障のない範囲で緑化等による環境整備を進めます。
  
4. 小菅らしい山村風景を創造する
  - ①花を育てるなど身近な景観づくりに取り組みます。
  - ②伝統的な民家や蔵、集落と集落を結ぶ道などを保全し活用します。
  - ③景観マップの作成、ハイキングコースや快適なトイレの整備、誘導サインの設置等を進めます。
  - ④良好な眺望場所など新たな魅力あるポイントを整備します。
  - ⑤小菅の暮らしが丸ごと楽しめる体験プログラム作りを進めます。
  - ⑥小菅村の湧水を保全・活用し、地域の魅力的な景観を演出し観光資源としての活用を図ります。
  - ⑦台風で被害を受けたわさび田を再生しその景観を保全します。
  - ⑧景観を妨げている要因を改善する取り組みを進めます。
  - ⑨良好な景観作りの観点から耕作放棄地や空家対策に取り組みます。
  
5. 源流の自然に調和する道路景観づくりを推進する
  - ①松姫トンネル入り口周辺の施設整備をすすめ、魅力ある小菅村づくりのシンボルとして観光振興に役立てます。
  - ②奥多摩と繋がる余沢金風呂周辺を県境の魅力あるゾーンに整備します。
  - ③上野原に接続する長作を歴史と文化を楽しむゾーンに整備します。
  - ④散策路を設けるなど「かえで橋」周辺の景観整備に取り組みます。
  - ⑤分かりやすく落ち着いた統一感のあるサインや案内板、看板の設置に取り組みます。  
看板類には、地元産の木を積極的に利用します。
  - ⑥変化に富んだ源流の道路景観づくりを進めます。
  - ⑦道路関連施設の修景や眺望点の整備を行います。
  - ⑧トンネルの坑口部は、村のシンボルとして個性的な景観形成を図ります。
  - ⑨沿道の森を明るい森に整備するとともに、道路敷地の緑化を図ります。



⑩各所に眺望点を設け休息と散策のできる道路づくりに取り組みます。

## 6. 自然に調和した小菅カラーの創造と普及を図る

- ①美しい景観形成を村民参加で進めます。
- ②統一感のある村づくりへみんなで心を一つにします。
- ③色彩の統一に関する合意が形成されるよう取り組みます。
- ④屋根の色にブルーはできるだけ避けるようにします。
- ⑤自然に調和した小菅カラーの創造と普及を図ります。

### 各地区の良好な景観形成について

#### 長作地区

- ・ 観音様や御鷹神社を活かし歴史と文化の里へ
- ・ 水辺や里山を保全し山村風景を育てる

#### 小永田地区

- ・ 神楽の里に調和した景観づくりを進める
- ・ 松姫トンネルの周辺を整備し魅力を高める

#### 白沢地区

- ・ 湧き水や水車を活かし景観の魅力を高める
- ・ 源流大学と原始村を活用し学びと体験の里を創る

#### 東部地区

- ・ 口留番所や昔道を活かし魅力を高める。
- ・ 親しめる川づくりを進め都市と山村の交流拠点を築く

#### 中組地区

- ・ 小菅の湯周辺を整備し花と緑の景観づくりを進める
- ・ 散策ルートを整えてくつろぎと開放感のある空間をつくる

#### 田元地区

- ・ もみじ橋周辺を整備し新しい観光スポットをつくる
- ・ 御所車の周辺を整備し、昔道を活用した散策ルートをつくる

#### 川池地区

- ・ 天神山を歴史の森として整備し展望点を検討する
- ・ 村営釣り場周辺を自然な川に整え魅力を高める

#### 橋立地区

- ・ 源流景観のシンボルである掛け軸畑を保全活用する
- ・ ヤマメの里の川を守り豊かな森と風景を活かす

## 各地区の良好な景観形成に関する方針

### <長作地区>

#### 長作地区の特性

長作は相模川水系の支流である鶴川の源流域に位置します。標高 700 ㍎、小さな盆地状の地形に形成された集落には、鎌倉時代中期に建立された国の重要文化財である「長作観音堂」があり、神楽入りの古観音から県の発掘調査で平安時代の遺跡が発見されました。また、巨木が林立する「御鷹神社」や交流施設「寺子屋自然塾」があるなど歴史と文化の里です。

#### 景観形成の目標

「歴史と文化が息づき豊かな森と水辺溢れる山村風景を育てる」

#### 景観形成の方針

A) 長作観音堂や七不思議などを活用し歴史と文化の里を築きます。

##### 考え方

長作地区は、観音様に守られ元気をもらって暮らしてきました。観音様、古観音、御鷹神社や七不思議の言い伝えを活用し歴史と文化の里を築きます。

##### 具体的イメージ

- 観音様や古観音の歴史と文化を将来に渡って継承します。
- 観音様、古観音、御鷹神社を巡る趣のある散策路を整備します。

B) 多様な生き物を支える田んぼや畑の風景を保全・活用します。

##### 考え方

失われた水田が 35 年ぶりに復活しました。清らかな水辺や里山の保全と再生を図り、美しい山村景観を次の世代に受け継ぎます。

##### 具体的なイメージ

- 源流大学による田んぼ再生事業を支えます。
- ホタルの復活に取り組みます。

C) クリンソウや清流を保全し親子で遊べる故郷を創ります。

##### 考え方

相模川水系・鶴川の源流を流れる清流を保全します。また、広がりつつあるクリンソウを育て来訪者も村民も心和む花咲く故郷をつくります。

##### 具体的なイメージ

- 鶴川源流の清流を保全し、子ども達が安全に遊べる川に育てます。
- 御鷹神社の森や花々、各家庭で育てているクリンソウを保全活用します。

D) 観音様に隣接する寺子屋自然塾を拠点とした交流を展開します。

#### 考え方

歴史や文化、自然や暮らしを活かした交流を進めます。地元の食材を使った郷土料理と心からのもてなしで来訪者の笑顔溢れる里づくりを進めます。

#### 具体的イメージ

- 滞在者の目線から施設を充実し寺子屋自然塾の周辺整備に取り組みます。
- 触れ合いを大切にしシーズンの特徴を活かしたイベントに取り組みます。

#### 長作地区景観資源調査



## <小永田地区>

### 小永田地区の特性

小永田地区は、国道139号線と県道上野原・丹波山線が交差する道沿いに集落があります。南向きのなだらかな斜面に家と畑が配置されて、事枿から集落が発生したとも伝えられ、高台に熊野神社が鎮座しています。この神社では毎年神楽が9月の第1土曜に奉納されます。松姫トンネルの入り口に位置し、大月方面からの玄関口にあたります。小永田、吉野、浅久保の3つの字から構成されています。

### 景観形成の目標

「神々と村人が集い伝統的な神楽と調和した景観を育てる」

### 景観形成の方針

A) 小永田地区を神代神楽の里に相応しい環境に整備します。

#### 考え方

小永田の神楽は、子どもからお年寄りまで地区全体が関わり守ってきました。この神楽を誇りに神々と村人が楽しく集える景観づくりを進めます。

#### 具体的イメージ

- 熊野神社の舞台で神楽を舞う方々が絵になるように整備します。
- 通りも家々も屋根の色も神楽の里に相応しい環境に整備します。

B) 風格ある石垣やモミジ坂のある里の風景を活かします。

#### 考え方

長い年月をかけて築かれてきた風格ある石垣や季節に彩り添えるモミジを保全します。神楽を核とし自然と調和した景観形成を進めます。

#### 具体的なイメージ

- モミジ坂の石垣を子々孫々まで保存するとともに地区内へ普及します。
- 石垣に調和した家づくり、人目を引く板を使った外観に整えます。

C) 松姫トンネル周辺を玄関口に相応しい魅力ある拠点に整備します。

#### 考え方

平成26年には、念願の松姫トンネルが供用を開始します。トンネル周辺を大月方面からの玄関口に相応しい魅力あるスポットに変えます。

#### 具体的イメージ

- 玄関口を自然に調和し神楽の里を演出した小菅らしい風景に整えます。
- お茶を飲んで話し合い神楽を舞える舞台のある交流施設を設置します。

D) 多摩川流域と神楽の辿る道を繋げます。

考え方

小永田の神楽は、日清戦争の頃、秋川市の二宮から伝わったと言います。この原点に立ち返り、神楽を通して上下流交流を広げます。

具体的イメージ

- 美しい景観と神々と村人が集う神代神楽の里を流域へ周知します。
- 通年神楽を目指し文化と伝統を通した上下流交流を広げます。

小永田地区景観資源調査



## <白沢地区>

### 白沢地区の特性

小菅川の支流、白沢川沿いに集落が分布しています。急傾斜地の畑に囲まれ、湧水に恵まれた地区です。平成4年まで開校していた白沢分校には、白沢、小永田、東部の児童達が通学していました。平成19年に開校した源流大学は、学びと交流の拠点になっています。また三ッ子山の麓に「原始村」という観光施設があります。三ッ子山の景観も大きな宝です。

### 景観形成の目標

「源流大学を活用し学びと湧水の里づくりを進める」

### 景観形成の方針

#### A) あちこちから自然に湧き上がる湧水を活かし湧水の里に整備します。

##### 考え方

湧水があちこちに湧き出ることから『白沢は水屋敷』と言われていました。水車や湧水を巡るコースを整備し、また訪れたいくなる湧水の里を育てます。

##### 具体的イメージ

- 水車や湧水周辺を整備し、誰でも湧水に触れられ親しめるよう整備します。
- 源流大学を拠点に湧水を巡るコースを整備し水車と湧水の里を築きます。

#### B) 源流大学という学びの里の活力を引き出します。

##### 考え方

源流大学を景観的に優れた内容に整備し村全体のモデルになる先進事例に育てます。村民と源流大学が一体となって学びの里づくりを進めます。

##### 具体的イメージ

- 村民と連携して地区全体を源流大学の学びの場に育てていきます。
- 村民と協力し源流大学を景観モデル施設の先進事例に育てます。

#### C) 豊かな森から湧き出る水を活かしたマコモタケの拠点に育てます。

##### 考え方

白沢地区は、暮らしの中に豊かな水が溢れていることが大きな特徴です。この豊かな水を活用し、マコモタケを核とする特産物の里づくりを進めます。

##### 具体的イメージ

- 豊かな水を活かしマコモタケを育て特産物の里づくりを進めます。
- タラノメ、自然薯、広葉樹の苗木などを育て村の特産物にします。

D) 余沢－白沢－板東－奈良倉に続く富士講の通った古道を辿り再生します。

考え方

白沢地区は、水の路であるばかりか富士講の道でもあります。民家や屋号など当時の面影が来訪者にも伝わるよう整備し古道を辿り再生します。

具体的イメージ

- 屋号の由来や案内板を設け富士講や昔道のコースを整備します。
- 当時の面影が来訪者にも伝えられるよう富士講や昔道を再生します。

白沢地区景観資源調査



## <東部地区>

### 東部地区の特性

小菅村の東端にあり、国道139号線で東京都に接する県境の里、玄関口の地区です。地区内には、東部森林公園キャンプ場と玉川キャンプ場があり、多摩川流域との交流の場になっています。玉川は、三頭山から流れ下る清流で、源頭付近の池ノ平には、多くの伝説が伝わっています。また富士講や口留番所の跡も残されています。余沢、大成、金風呂の3つの字から構成されています。

### 景観形成の目標

「玄関口の魅力を高め都市と山村の交流拠点づくりを進めよう」

### 景観形成の方針

A) 村民や来訪者が親しめる川づくりを進めます。

#### 考え方

東部地区の特色は、小菅村で一番川に直接触れ親しむことのできるゾーンが広がっていることです。村民と来訪者が親しめる川づくりを進めます。

#### 具体的イメージ

- 訪れた人が誰でも川に親しめるよう遊び場や案内板、歩道を整備します。
- 森林公園キャンプ場から日陰橋、蛇石を通る散策コースを整備します。

B) 「多摩川の源流に玉川がある」という物語を広めます。

#### 考え方

もともと玉川は、美しい川から名前が生まれました。江戸時代の「玉川惣図」では、ここが源流として描かれています。こうした物語を広めます。

#### 具体的イメージ

- 玉川の源流周辺の池ノ平は、湧水と民話、巨木の宝庫。これを活かします。
- 林道周辺を明るい森に整備し、三頭山から都民の森へと繋げます。

C) 天空の村ー大成集落の文化と景観を活かします。

#### 考え方

天空の村ー大成の文化と景観を活かします。併せて口留番所や富士講など古道の物語りを復活させ、大成～余沢～白沢をつなぐ昔道を再生します。

#### 具体的イメージ

- 大成に交流施設を設け、大成～余沢～白沢を巡る古道を再生します。
- 口留番所を復活し、地元ガイドによる歴史街道巡りを進めます。



D) 東京方面からの玄関に相応しい源流の里をつくります。

考え方

森と川を売りにして玄関口の源流の里として整備します。オマキ平の展望台を復活させるなど、明るい森づくりと見える川づくりを進めます。

具体的イメージ

- オマキ平の展望台を復活し、明るい森づくりと見える川づくりを進めます。
- 両キャンプ場一帯を明るい森づくりのモデルとして整備します。

東部地区景観資源調



## <中組地区>

### 中組地区の特性

中組地区は、平成6年に多摩源流こすげの湯が建設され、村内の観光施設として重要な位置を占めており、集客力の要になっています。併設されている物産館は、地域住民が農産物を出荷することで現金収入獲得の場となっています。小菅村では珍しく大きく開けた平地にソバや野菜畑、運動公園、市民農園等がもうけられています。また縄文遺跡も発掘されるなど歴史の故郷です。三ッ子山の登山口にも当たります。

### 景観形成の目標

「魅力ある散策ルートを整えくつろぎと開放感のある山里へ」

### 景観形成の方針

A) 「ゆへの道」づくりを進め湯の里の賑わいを創ります。

#### 考え方

多摩源流小菅の湯は、小菅で最も集客力のある施設です。この周辺を村民と学生・NPOが一体となった「ゆへの道」づくりを進めます。

#### 具体的イメージ

□縄文遺跡を活かすなど

温泉周辺に魅力ある散策ルートを整備します。

□学生と村民・NPOが進めている「ゆへの道」づくりを支えます。

B) 山沢入りの清流を生かしワサビの育つ川を取り戻します。

#### 考え方

小菅の特産品であるワサビが大雨で被害を受けました。これを再生すると共に源流の水にこだわったワサビづくりを普及します。

#### 具体的イメージ

□災害で被害を受けたワサビ田の再生に取り組みます。

□ワサビのオーナー制度を採用するなど体験型の取り組みを進めます。

C) 原産種を見直す新たな畑づくりを進めます。

#### 考え方

小菅村では、昔から雑穀栽培が盛んです。学芸大学と連携し、雑穀を始め様々な原産種を発掘し、普及します。

#### 具体的イメージ

□小菅の湯周辺に雑穀を核とする特色ある原産種の畑づくりを進めます。

□学芸大学と連携し、地元講師とともに体験と人材育成に取り組みます。

D) 温泉周辺の景観を良くするために明るい森づくりを進めます。

考え方

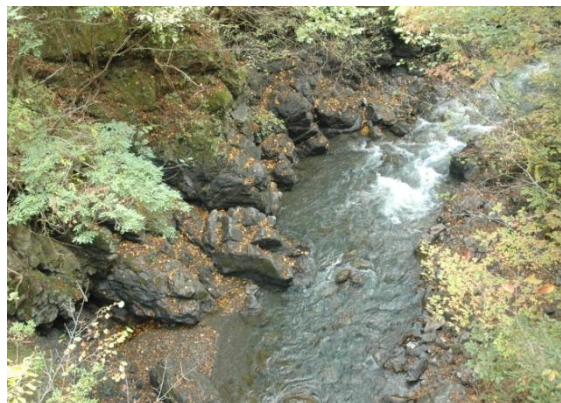
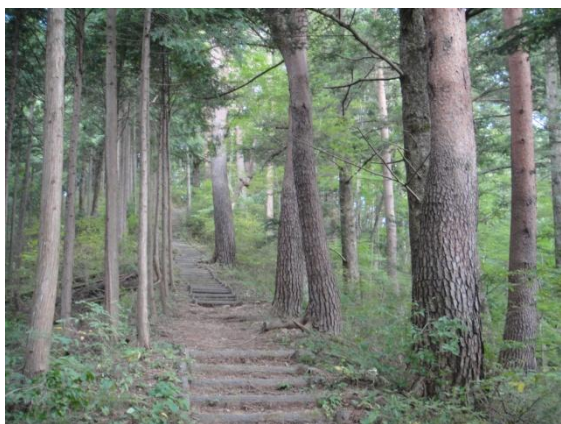
温泉を中心とした健康散策ルートをつくります。三ッ子山を含む散策路の周辺の森林を明るく健康的な森に整備し景観を保全・活用します。

具体的イメージ

- 温泉周辺の間伐・枝打ちを進め景観的にも美しい森を育てます。
- 温泉と散策ルートを活用した健康作りプログラムに取り組みます

。

中組地区景観資源調査



## <田元地区>

### 田元地区の特性

小菅村の中心からやや東寄りにあり、緩やかな傾斜地に集落があります。小菅の湯と村の中心地に接しており比較的利便性の高い地区です。小菅川と国道に沿って家並みが続き、地区の東側には村営住宅が建設されており、村外からの移住者が多いのが特徴です。国道沿いの桜並木はみごとです。「もみじ橋」周辺を新しい桜とモミジの名所にする取り組みが始まっています。

### 景観形成の目標

「もみじ橋の周辺整備を進め魅力的な新しい観光スポットを創る」

### 景観形成の方針

A) 「もみじ橋」周辺にモミジと桜が咲きほこる公園づくりを進めます。

#### 考え方

国道沿いのモミジを保存するために、新しい橋が架かり、その橋は「もみじ橋」と名付けられました。その周辺をモミジと桜の公園に整備します。

#### 具体的イメージ

- 「もみじ橋」の周辺に駐車場と休憩できるスポットを設けます。
- 「もみじ橋」を起点に川の両岸にモミジと桜の公園を整備します。

B) 「もみじ橋」を起点にした景観の美しい川づくりを進めます。

#### 考え方

「もみじ橋」沿いにあるヤチグラの滝、ドードコロの淵、平山淵を活かした川づくりを進め、村民にも来訪者にも親しめる親水ゾーンを整備します。

#### 具体的イメージ

- 自然を活かした川づくりと散策路の整備を進めます。
- 山沢川の合流点の湧水を活かしトンボ池と清流巡りを整備します。

C) 昔道を巡り御所車で元気になる里をつくります。

#### 考え方

川池地区の愛宕様から続く集落と集落をつなぐ昔道を復活し、地名や屋号を巡る散策路を整備し、展望の開けた御所車に新しい光を注ぎます。

#### 具体的イメージ

- 集落と集落を結ぶ昔道には、昔の面影が残っておりこれを活かします。
- 展望点の御所車周辺を整備し新しい光を当てて名所にします。

D) カタクリが咲き広葉樹の新緑が映える溪畔林の森を活かそう。

## 考え方

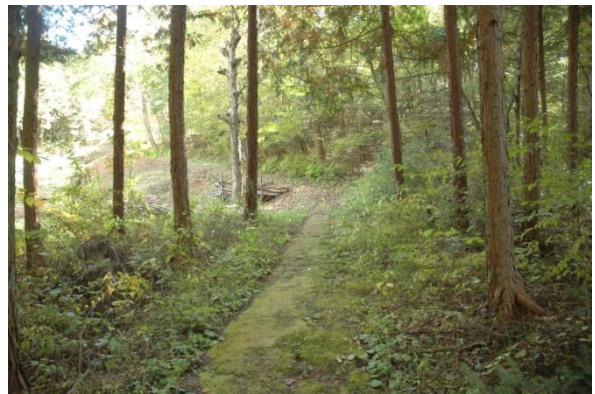
ヤチグラの滝から平山淵のあいだは、優れた溪谷美が保存されています。雑木林には、カタクリとミズナラの林が広がります。これを保全・活用します。

## 具体的イメージ

□カタクリは盗掘に注意を払いながら周辺を整備します。

□雑木林の炭焼き跡を保全し、生業の歴史が学べるよう整備します。

## 田元地区景観資源調査



## <川池地区>

### 川池地区の特性

川池地区は、小菅村役場や小学校、中学校、保育園、診療所、郵便局、農協、商店街、旅館など小菅村の中心部を構成し、村の顔に当たります。国道139号線と県道上野原丹波山線が通過し、交通の要衝にもなっています。集落の北側に箭弓神社と小高い天神山があり森に包まれた遊歩道は趣のある雰囲気になっています。新しく建設された木づくりの小菅村体育館は注目を浴びています。

### 景観形成の目標

「歴史の森づくりを進め村の顔に相応しい魅力ある公園を創る」

### 景観形成の方針

箭弓神社と諏訪神社、天神山の趣のある佇まいを保全し、村民や観光客が気軽に散策し楽しめる魅力ある歴史公園を作ります。

A) 神社と天神山の歴史を活かした森づくりを進めよう。

### 考え方

戦国時代の武将小菅遠江守信景は小菅村と丹波山村の両村を支配しました。建てた山城跡、寄進した箭弓神社があり歴史を活かした里づくりを進めます。

### 具体的方策

- 天神山の森を歴史の森として保全し展望点として整備します。
- 天神山を中心とした散策ルートを整備し休憩所を設置します。

B) 村営釣り場と宮川周辺を多自然づくりで整備し川の魅力を高めます。

### 考え方

村営釣り場周辺は、村の中心にあり人工的で災害に弱い状態です。これを本来の川の機能を活かした多自然川づくりの手法で整備します。

### 具体的方策

- 専門家の指導で釣り場周辺を多自然川づくりの手法で整備します。
- 池の尻橋の上流に巨石を配置したフリーゾーンを設け魅力を高めます。

C) 自然と調和した村の顔にふさわしい魅力ある街並みを創ろう。

### 考え方

木づくりの小菅村体育館が建設されるなど新しい村づくりが開始されました。

### 具体的方策

- 木づくり看板の設置、塀や壁の意匠や彩りを木づくりで飾ります。
- 村の役場を率先して木づかいの役場へと改築・改修します。

D) 川池から田元へと続く昔道を復活し散策路として迎ろう。

考え方

川池から田元へ続く集落と集落をつなぐ昔道を復活し、地名や屋号を巡る散策路を整備し、時の遺産として面影や暮らしを保全・活用します。

具体的方策

□地名や屋号を地域の宝として保全し水の見える休憩所を設けます。

□昔道マップを地元でつくり地元で案内する仕組みを作ります。

川池地区景観資源調査



## <橋立地区>

### 橋立地区の特性

小菅村の最西部に位置し、小菅川の左岸に集落が広がっています。集落の背後には、上の山（急傾斜な畑）が天に向かって伸びており、源流の厳しい暮らしが生み育てた独特な景観が存在します。その掛け軸畑では、コンニャクやそば、露地野菜が栽培されています。地区には、橋立神楽と呼ばれる伝統的な神楽が残されており、毎年8月の第2土曜に奉納されています。

### 景観形成の目標

「掛け軸畑を源流景観のシンボルとして保全・継承しよう」

### 景観形成の方針

#### A) 掛け軸畑の景観を守り次の世代に伝えます。

##### 考え方

この掛け軸畑は、源流でしか見られない源流独特の景観です。これを地区はもちろん村全体の宝として位置づけ保全・活用します。

##### 具体的イメージ

- 源流の暮らしが育んできた掛け軸畑を保存します。
- 村はもちろん流域にも働きかけて保全する仕組みを考えます。

#### B) ヤマメのふる里の川を大事にします。

##### 考え方

小菅村は、全国に先駆けてヤマメの人工養殖に成功した村です。この伝統を守りヤマメの生息するゾーンを広げ保全します。

##### 具体的イメージ

- 河川の一定区間を禁漁区に設定し、小菅村原産のヤマメを守ります。
- 小菅川源流の源流体験のコースを整備し源流体験交流の拠点にします。

#### C) 百年にわたる水源林の知恵を流域へ繋げます。

##### 考え方

都水源林が明治43年以来営まれ、豊かな森が保全されています。百年に渡る水源林の技と知恵を守り継承します。

##### 具体的方策

- 周辺の森林の間伐・枝打ちを進め、健康で明るい森をつくります。
- 枝打ち名人の指導の下、枝打ちの人材養成を進めます。



D) 橋立のシンボルである掛け軸畑・上ノ山の優れた景観を活かします。

#### 考え方

橋立のシンボルである掛け軸畑を保全・維持していくことは容易ではありません。掛け軸畑や上ノ山の景観と畑の素晴らしさを流域へ広めます。

#### 具体的方策

- 掛け軸畑・上ノ山は景観が素晴らしくこれを活かします。
- 掛け軸畑から八幡さん、箭弓神社へと繋がる空間を活用します。

#### 橋立地区景観資源調査



## 2) 小菅村源流古道資源調査とそのまとめ

### ～源流域の文化と民俗・伝承に関する調査～

魅力ある源流物語を次の世代に

源流は、水の源であり、川の源でもあると同時に、日本文化の源を意味する。山の恵みや森の恵みから暮らしが生まれ、山の恵みを求めて歩く足跡は古道として受け継がれた。人々の心の支えとなった自然信仰・山岳信仰は修験道として日本独自の自然観を産み出したが、こうした源流文化が過疎化の中、存続の危機に直面している。さらに、厳しい自然環境に立ち向かう中で培われてきた暮らしの知恵や技は、今なお源流域の生活に色濃く引き継がれているが、深刻な後継者不足に見舞われている。日本人が失ってはならないこうした大切な心の文化遺産・源流文化を我々は、調査・発掘し再生しながら、これからの希望もてる未来社会へ確実に受け継がなければならないと考えている。ここでは、源流の可視化事業に欠かせない魅力ある源流物語を次の世代に伝えるための基礎的な調査資料を収集し、独自の視点からまとめた。

### 源流古道の意味するもの 一流域と流域を結ぶ道一

日本列島に人々が暮らすようになって以来、人々は日々の食料を得るために、山野を駆けめぐった。道の多くは、獣道を探すことから始まった。熊やイノシシ、鹿や狼たちが切り開いた道は、安全で最短距離であった。獲物を獲得するために歩いた道は、やがて生活や暮らしのための道に変わり、こうした道筋が各地に広がり、土地と土地を結ぶ道、集落と集落、さらに流域と流域を結ぶ道へと発展していった。

また、古道は歴史的な出来事の舞台ともなり、多くの信仰・伝説や言い伝えが残り、多くの事件を見続けてきた。何故、ここに道があるのか、歴史を意識して道を歩くことは、道に刻まれた様々な時代の記憶を辿ることになる。様々な歴史が刻まれた源流の道を我々は「源流古道」と呼ぶ。「源流古道」は、峠を通して異なる土地と土地を結ぶ結節点にもなった。また交易の窓口ともなり、常に新しい息吹をもたらし、文化交流の十字路でもあった。この「源流古道」を辿ることによって、土地に刻まれた新しい歴史を発見し未来への確かな希望を得ることが出来るであろう。

### 松姫の歩んだ道を辿る 松姫峠の由来

戦国時代の武将武田信玄の息女松姫は、武田家滅亡の折甲州から武蔵国の八王子恩方に移り住んだといわれている。大月から小菅までの県道が開通した折、小金沢入りから深代

を抜ける、曲折した険しい峠越えを余儀なくされたが、この峠を松姫が通ったという伝説に因んで山梨県知事田辺国男は、松姫峠と命名した。峠に建つ松姫峠由来には、「武田勝頼は一族挙げての戦いにもかかわらず天正10年3月天目山に散った。妹松姫は従臣と共に府中（甲府）を後に八王子に避難の折当初付近を通過したる史上の伝説に因みここに松姫峠と命名された」と記されている。

父信玄の没後、高遠城にいた松姫は、織田・徳川軍の木曾侵攻を知るや甲府へと逃れ、甲府に敵が近づいてくると塩山の恵林寺に身を寄せる。恵林寺も危険となり、同じく塩山の向岳寺に匿われる。その直後に恵林寺は焼き討ちにあってしまう。快川和尚をとむらった後、松姫は向岳寺の和尚の薦めで武蔵国恩方の金照庵という小さな庵に落ち着くことになるのである。この恩方までその際、大月方面は、既に相手方に寝返った小山田方の支配地であるため、松姫は最も安全な道を選択したであろう。

松姫が、実際にどのルートを通って逃げ延びたかは諸説あつて確定したものはないが、織田・徳川勢の甲府攻めにあつて、かつての信玄の部下達もお家の存続を願つて次々に敵方に寝返っていく中、身の安全を保つて武蔵国に松姫が避難するには、限られたルートしかなかったことは確かである。その有力ルートの一つが大菩薩から牛ノ寝通り、松姫峠から奈良倉山、十文字峠、西原から笹尾根を越え、北秋川と南秋川を分ける浅間尾根を通り恩方に抜ける大菩薩ルートである。多摩川源流には、武田信玄の領国支配を経済的に支えた黒川金山があり、大菩薩周辺の道に詳しい案内人が沢山いたし、麓には雲峰寺という歴史の古い寺があり、武田勝頼が自刃したとはいえ武田一族に忠実な一族郎党がいた。

#### 武州と甲州を結ぶ源流古道

この浅間尾根には武州と甲州を結ぶ古道が走っていた。八王子、五日市、檜原から甲州に行くには、青梅道はすこぶる回り道であった。旅人は、檜原の本宿から浅間峰、浅間尾根、御林山、三頭山、鶴峠、奈良倉山、牛ノ寝通り、石丸峠を通り甲州に辿り着いた。多くの人々が通ったこの古道を松姫は通ったと考えられる。富士山を逍遙できる浅間神社（石宮）が置かれたため浅間尾根と呼ばれている。この石宮において松姫一行は甲州を脱した安堵心で、武田に殉じた家臣達を回向したと伝えられている。この後、松姫達は檜原村小岩に下り時坂峠、本宿、嫁取り坂、市道山から上恩方の金照庵に隠れたと思われる。

松姫が武州まで避難したといわれるもう一つのルートは、塩山の向嶽寺から大月真木、西奥山、田無瀬、下瀬戸、鶴川、上野原、案下を抜けて恩方の金照庵に辿り着くルートである。このルートでは、相手方に寝返った小山田方の領内を通らざるを得ず、武田の残党狩りが吹き荒れる中、集団による逃避行は困難であったと思われる。

#### 織田信忠との婚約破棄

武田信玄は、1573年、上洛の途中で病死した。信玄の後を継いだ武田勝頼は、時代の流れに抗しがたく天正10年3月11日（1582年）、織田・徳川両軍の甲斐の国への侵攻の前に天目山で討死し、甲斐源氏の名門武田家は滅亡することになる。

松姫は、信玄の末娘の6女として永禄4年（1561年）9月、甲府の躑躅ヶ崎の館で生まれた。信玄はその時、宿敵上杉謙信と雌雄を決すべく川中島に出陣していたときのことであった。力こそが正義であった戦国の世にあつて、どんな名門の女性といえども、いや名門の女性であればこそ一人の人間としての人格は認められず、武将達の勢力争いの道具として政略結婚させられる運命にあつた。松姫は、1567年、7歳の時、織田信長の嫡男である11歳の信忠と婚約した。信長が信玄との縁戚関係を保ちたいとの思惑から申し込んだものだった。無事婚約が成立し、信忠から様々な美しい着物地や帯などが送られてきた。信玄が、信忠との婚約が結ばれた松姫のために新しい館を建てて住まわせたことから、松姫は新館御寮人と呼ばれた。まだ見ぬ婚約者への思いは募り信忠と松姫は、胸ときめかせせせと文通を続けよいよ輿入れの日が近づいていたが、元亀3年、信玄が西上の軍を起こしたことから事情が一変した。三方ヶ原の戦いで徳川家康を破った敵軍の中に信長の手兵が混じっていたことが分かり、激怒した信玄は信長との国交を断絶し、松姫と信忠との婚約も解消した。

#### 共感を呼ぶ松姫の生き様

天正元年、信玄が病に冒され命を絶つと松姫は、実兄の盛信の高遠城に引き取られた。兄は、うら若い妹の行く末を案じて、婚約を進めるが、松姫はいったん婚約した以上はたとえ破談になっても、その人への操を守り通したいと縁談には耳を貸さなかった。時代は流れ、武田家の家運は傾き、天正10年、織田・徳川連合軍が木曾谷を攻め上がってくると、兄盛信は、三歳の娘を松姫に託し、松姫を新府城まで送り届けた。松姫は甲府に敵が近づいてくると塩山の恵林寺に身を寄せることとなった。ところが恵林寺も危険となり、同じく塩山の向岳寺に匿われる。その直後に恵林寺は焼き討ちにあつてしまう。快川和尚をとむらった後、松姫は向岳寺の和尚の薦めで武蔵国恩方の金照庵という小さな庵に落ち着くことになるのである。

やがて松姫は、曹洞宗の心源院ト山和尚を訪ね、剃髪して仏弟子になり、法名を信松禅尼と称した。松姫22歳の時のことであった。そして、天正18年自身の庵を持つべく現在の御所水の里に移り住み、信松院を建てた。松姫は、武田一族の菩提をとむらう仏道精進の毎日を送るかたわら、糸を紡ぎ、絹を織り、織物の技を里人に教え、近隣の子供たちには手習いを教えたため、土地の人々からもたいそう慕われた。松姫の伝えた織物が後世八王子織物として発展したと言われている。松姫は、織田信忠との婚約が破棄された後、一度は婚約した身であるからと、一生独身を通した。そして女性の不幸は我が身で沢山と

すべての女性の幸せをと誓願を起こしたという。こうした生き様は、多くの女性の共感を呼び尼公の墓所には幸せを願う女性の参詣が絶えないという。

### 古観音と長作観音堂

小菅村の文化的遺産として最も注目すべきものに長作観音堂（国指定重要文化財）がある。この観音堂は鎌倉後期の作と推定され、昭和38年の解体修理の際、文明7年（1475）の墨書が発見されており、堂内に安置する厨子も室町期のものと推定されることから、この時に改修されたことは確実である。鎌倉時代の木造建築が現存しているのは、山梨県でも数少なく、安置されている如意輪観音の文化的な価値にも注目が注がれている。

この種の観音堂は、全国に3箇所しか存在せず、そのうち兵庫県加古川市の観音堂は近年火事で焼失したため、現存する鎌倉時代の観音堂は静岡県吉良町の観音堂と長作観音堂のみになっている。また、地元では、観音様はその昔神楽入の古屋敷と呼ばれる場所であり、その後現在の地に移されたといわれ、もとの地を古観音と称しているが、昨年（平成19年）の古観音の発掘調査（山梨県考古博物館）で古屋敷から平安時代の土器が発掘され、地元の言い伝えが歴史的に証明されるなど新しい事実が明らかになった。今後、古観音と長作観音堂の歴史的遺産としての調査・研究の進展が求められている。

### 大菩薩峠と甲州裏街道

近世、大菩薩峠越えの道は、国中（甲府）から萩原口と称し、青梅道・青梅往還、大菩薩越ともいわれ、甲州から武州多摩郡青梅を経て江戸に達する重要な源流古道・道筋であった。

あの有名な中里介山の長編小説「大菩薩峠」は、次の巻頭言ではじまる。「菩薩峠は、江戸を西に距（さ）る三十里、甲州裏街道甲斐の国東山梨郡萩原村に入って、その最も高く最も険しきところ、上下八里に跨る難所がそれです。標高六千四百尺、昔、清き聖が、この嶺の頂きに立って、東に落ちる水も清かれ、西に落ちる水も清かれと祈って、菩薩の像を埋めて置いた。それから東に落つる水は多摩川となり、西に流るるは笛吹川となり、いずれも流れの末永く人を湿ほし田を实らすと申し伝えられてあります。」

大菩薩峠を中心とする源流古道は、古甲州街道、古青梅往還、行者街道など古の交易・交流をめぐる十字路に当たる交通の要衝に当たる。この源流古道を再生し、様々な歴史的遺産を調査し、源流文化の神髄を明らかにすることは極めて重要な課題になっている。

### 無言交易と大菩薩峠

国中地方（甲府盆地）から東進してきた青梅往還は、大菩薩峠で二路に分かれた。一路

は丹波山通といい、丹波山村と小菅村の堺をなす北側の尾根伝いに進んだ後、丹波山村の押垣外を経て丹波川沿いに行き、もう一路は小菅通といって、南側の尾根を進み、小菅村の田元、井狩、白沢、余沢に出るもので、両路は武州川野村付近で再び合流した。青梅往還は、甲州道中の裏街道の役割を果たし、交通量も多かった。しかし、昇降八里の道は険しく人家もなく、物資を運ぶ苦勞があったので、大峯荷渡しと呼ぶ無人の荷物引取り風習があった。当時の様子を甲斐国誌は、次のように記述している。

「大菩薩峠は、小菅と丹波より山梨郡の萩原へ出る山道なり。昇降八里、峠に妙見大菩薩社二つ、一つは小菅に属し、一つは萩原に属す。萩原より米穀を小菅の方へ送るものも峠まで持ち来たり、妙見社の前に置いて帰る。小菅の方より荷を運ぶものも亦峠に置き、彼の萩原より送るところの荷物を持ち帰る。此の間数日を経ると雖もすべて盗みたるものなし。冬雪降りて二月末に至り漸く往来する頃、お互いに荷物を送るに去冬の置けるものの紛失することなく、相易って持ち帰るなり。」取引された物資に関しては、小菅から木炭、コンニャク、経木、山葵が、萩原（塩山）から米、酒などであったという。萩原は甲斐を代表し、小菅は武蔵を代表する玄関口の役割を果たしていた。大菩薩峠は甲斐と武蔵の事実上の国境であった。

#### 富士信仰と小菅富士講

富士信仰とは、富士山を礼拝する、崇拝すること。日本には、古代から伝わる山の神を祀る風習、山岳信仰があった。神道とか仏教とかいろいろな宗教をミックスした思想体系で修験道という一つの新しい宗教が奈良時代に芽生えた。修験者は、山を駆けめぐって何日も歩く、一日に何十里も歩くという超人的な行動を取った。その開祖は、役行者（小角・おづぬ）であり、伊豆七島に流されていたとき富士山で修行したと言われている。この流れをくんで江戸時代から富士山独自の信仰形態が生まれ、各地に富士講が生まれ、江戸では爆発的な人気を得て、江戸八百八講といわれるほど広がった。

富士吉田には、関東各地の信者の世話をする御師（おし）の家が約80軒あった。そこに遺された宿坊の記録簿によれば、甲州関係では上鳥沢村をはじめ10ヶ村が宿泊している。

「山梨県下では、上鳥沢村をはじめとする村々が檀那所であった。残りは当時の甲州街道から蔦野川沿いに続く山間の村々と推定される。そこから佐野峠を越えた小菅・丹波山両村は田辺越後路に変わっていて、登山や太々神楽の執行がされている。」（堀内真）

その宿泊所に、各地の檀那所が奉納した石造物があるが、「山梨県内に係わるものに小菅村の旦家の立てた自然石の碑がある。明治34年に『大先達 細川真行 通称 細川源左衛門』の御内外八湖修行、登山50度大願成就」を祈念して立てられたものである。小菅村内には、大成、余沢、白沢、坂東などに富士講の足跡が残されているが、このルートは、武州

や秩父からの富士講の参拝のルートに当たり、当時白沢には旅籠が存在し、フリーード「古宿」という地名も残されている。

また、金峰山から富士山へと続く行者街道が通っており、国師岳、甲武信岳、破風山、雁峠、三峯山、雲取山、飛龍山、竜喰山、笠取山、大菩薩、小金沢嶺、富士山と続く修行の道は信仰・交易の道でもあったという。

#### 調布玉川惣画図

この調布玉川惣画図は、江戸時代の末期（1845年）に、多摩川中流域の関戸村（現多摩市）の名主を務めた相沢伴主が多摩川の源流から河口までの長い絵巻物を作成し、これを江戸時代の絵師長谷川雪旦の子、雪堤が木版刷りにしたものである。多摩川の源頭から河口までの全貌をまとめた絵図としては、これが日本で初めてのものと推測され、大変価値のあるものである。

相沢伴主は、絵巻の巻頭に「調布玉川絵図之弁」をしたためている。そこで自ら水源に足を運び確かめた経緯を述べている。そしてその源頭に玉川が甲斐の国小菅村にあることを突き止め、これこそ玉川の水源に違いないと確信し、三頭山から流れいずる玉川を水源と定めている。

この絵図を子細に見れば、源流に丹波川と小菅川があるのが確認できる。源流域の深山幽谷の様を見事なタッチで描いているが、山の名前としては大菩薩嶺のみをあげている。当時としては、丹波川の奥に一ノ瀬川があり、その一ノ瀬川が笠取山や唐松尾山から流れいずることを知る由もなかったのであろう。

この著者は、戦国時代の武田信玄の財力を支えた黒川金山から流れ下る黒川の名を記している。絵図には黒川が丹波川の北側より流れ込んでいるが、実際は南側から流れ込むのである。黒川の源頭は、黒川金山のあった黒川鶏冠山であるが、この絵図には、黒川金山も黒川鶏冠山も記していない。自ら確信できない情報を排除し、可能な限り事実を忠実に忠実たんとしたその態度は実に立派である。

この調布玉川惣画図には、多摩川の両岸が見事な筆裁きで描かれている。そこには、村や町、山や田んぼなどの風景や、武士や農民、漁師、町民、旅姿など庶民の生き様が生き生きと描写され、さらに地名や名所旧跡、神社仏閣が記されている。現在にも通じる地名も多数確認できる。

今から160年前の19世紀の半ばに、自ら多摩川の源頭を杖を突いて訪れ、その水源を確認し、川の両岸をつぶさに視察し、源頭から河口までの絵巻物を仕上げた相沢伴主の自然や人間に対する思いの深さに心から感銘、共感するものである。

21世紀は環境の世紀、水の世紀といわれている。多摩川源流域は、東京都の水源林として一世紀に渡り大切に管理されてきた。源流域に生活する私たちも、清浄な水を確保す

るため、森を育て川を守る取り組みを地道に取り組んできた。これからも、この綺麗な源流の流れを次の世代に引き継いでいきたいと思う。

多摩川は、この調布玉川惣画図にも描かれているように昔から源流と中・下流は、一本の流れで結ばれている。私たちも源流と流域の交流を図り、お互いに助け合い、心と心を結び合い、この世紀を「人間と自然の共生」「都市と山村の共存」の時代に発展させていきたいと希望している。

## 神社と神楽の奉納

小菅村には、橋立の熊野神社、八幡神社、川久保の箭弓神社、諏訪神社、山沢の山沢神社、小永田の熊野神社、浅間神社、井狩の御岳神社、余沢の御岳神社、白沢の作ノ宮神社、大成の小森神社、長作の御鷹神社など12の神社と湧金山宝生寺がある。民俗学的には小さな村に何故12の神社が祀られているのか不思議とされている。

小菅村の形成と源流古道は大きな関わりを持っており、峠を通して異なる流域との交易が盛んな土地柄だったと考えられる。異なった流域には異なった文化が生まれており、交易は常に新しい息吹を小菅にもたらし、多くの神社の建立もこうした流れの中で生まれたと思われる。

全国で祀られている祭神で一番多いのは、八幡様で次で伊勢、天神、稲荷、熊野、諏訪と続くが、小菅村には、全国クラスの神と地元共同体で祀る神が共存している。平安時代以降、力のある神を外から招く「勧請型信仰」が広まったとされており、八幡、熊野、諏訪、浅間、御岳などは、こうした流れに組みし、古来より地域共同体が祀る「氏神型信仰」として形成されたものには作ノ宮や小森、山沢などがある。さらに、山岳信仰としての浅間神社や御岳神社が古くから小菅村に定着していたことは、古道の中核をなす大菩薩峠の裾野に位置していることと合わせ、注目される。

また、小菅村の伝統芸能として古くから伝えられ、現在も伝えられているものとして「箭弓神社の獅子舞」「橋立八幡様の神楽」「小永田熊野神社の神代神楽」がある。祭や神楽は、共同体的意識を醸成し、村の発展へのエネルギーとして大きな役割を果たしている。

今なお、それぞれに神楽保存会の人々によって傳承されているが、後継者不足が大きな課題になっている。

## 源流の暮らしと生活の知恵

小菅村には、東部、田元、川池、白沢、小永田、中組、橋立、長作の八集落があるが、それぞれの集落には、固有の特性がある。それぞれの集落に暮らす人々は、自然から多くのことを学び、多くの技を身につけ、自然と一体化した「知恵」として固有な文化を形成



してきた。

村内には集落と集落を結ぶ生活道、山の恵みを求める山野道、山葵を育てる暮らし道、森を育てる山道、獲物達を追い求める猟師道、神様を祀る信仰の道などが張り巡らされ、多くの人や物資が行き交った。これらの道には、興味深い地名が随所に溢れて、自然と共生した暮らしが根付いており、また、自然と人間の結びつきを示す様々な文化が残されている。

また、源流という厳しい地形は、特有の産業を産み出してきた。溪流魚の女王と珍重されているヤマメは、昭和36年、橋立の酒井崑さんによって全国で最初に人工養殖され、その技術は全国に広がった。厳しい山々を流れる沢という沢に山葵田が広がっているが、谷間の一つ一つの山葵田は小菅人がいかに勤勉であるかを示しているし、急傾斜の山肌でコンニャクづくりが営々と続けられてきた。また、各地の山の中に炭焼き釜の後が点々と残されており、森の恵みに寄り添って生きてきた暮らしが偲ばれる。ヤマメやイワナ、山葵やコンニャク、炭焼きや狩猟などは、自然との共生なしには、持続することができなかった。

こうして小菅村には、自然と格闘しながら生まれた物作りの技や知恵が今も脈々と受け継がれているが、過疎化・少子化の急速な進展の中で源流の暮らしや生活の知恵をどのように次の世代に伝えていくかが、大切な課題になっている。

## 多摩川の特性と都水源林の歴史

平成13年4月に山梨県小菅村によって多摩川源流研究所が設立された。源流研究所は、源流域の自然、歴史、文化などの様々な資源に着目し、その価値と可能性を探求すると共に、流域の市民、大学、企業などと連携して情報の発信、上下流交流の推進による村の活性化、源流体験など環境教育の推進、大橋式路網の開設など森林再生プロジェクト、森・川・海を繋ぐ源流ネットワークの形成など、自然環境の保全と源流の郷の存続と再生をめざす活動を展開している。源流に位置する小菅村が、流域とどのように連携するか、源流の資源を流域の市民と共に守る仕組みをどのように構築するかなどの戦略的な課題と方策を構築することが今求められている。ここでは、多摩川源流域に広がる都水源林の歴史など多摩川の特性に注目して、その特性にそった源流研究所の活動の特徴を述べる。

小菅村は、多摩川の源流に位置する。この源流の村がどのようにして流域に根を張り、存在感や知名度を高め流域との連携を深めていくか、これは小菅村の発展にとって戦略的な課題である。多摩川の歴史や文化、その特徴を知ることなしに、源流再生に関する正しい方針も課題もたてられないと言っても過言ではない。そこでまず、源流域における多摩川の歴史と文化を簡単に振り返る。

日本では、奈良や京都など関西が政治や文化の中心になった時代が長いわけであるが、多摩川は、東の国の名もない普通の川だった。この川の運命が大きく変わるのは、実は1

1590年からである。なぜかという、小田原城で徳川家康は、豊臣秀吉から「三河から江戸に移れ」と命令を受ける。徳川家康が江戸に入ってきた年が1590年だった。江戸は、当時人口の少ない寒村で、しかも利根川も東京湾に流れていたから、洪水が起こると、利根川、荒川、多摩川が一斉に氾濫を起こすという大変な場所だった。徳川家康は1590年に入ってきて、まず何を始めたかという、城下町をつくるために飲料水を確保する事業に着手し、赤坂溜池山王や神田上水を開設した。

#### 多摩川が江戸の水資源を支える川へ

家康は13年後に江戸幕府を開いたが、江戸開幕によって、江戸は日本の政治・経済・文化の中心都市として成長を続けることになる。1635年に参勤交代が制度化されると江戸の人口は急激に膨れ上がり、それに伴って水の需要も拡大した。そのため、江戸幕府は、多摩川を丸ごと上水へ利用するという大胆な発想の元に、玉川上水の開設に取りかかった。この玉川上水の開設こそが、江戸の庶民の暮らしを支え、武蔵野台地の新田開発の大きな原動力になった。まさに多摩川は江戸の水資源を支える川へと大転換した。水を安定的に確保するには、源流の森が非常に重要だった。だから、江戸幕府は源流域の森を大切にした。多摩川の源流域をお止め山、つまり勝手に入って伐採したり、焼き畑をしてはいけない、許可なく出入りしてはならないという山に変えた。

ところが、明治に入って、政府の森林政策が疎かになるとともに、民間と公的な所有を区別する官民区分制が導入され、民間には税金がかかるということから、多くの人が山の所有権を放棄した。そういう中で源流域の森が乱伐をされ、荒廃し丸裸になっていった。明治の中頃には、ちょっと雨が降れば、玉川上水が濁る。それから日照りが続くと、今度はみるみる水位が下がってくる、大変な事態を迎えた。そのため、東京府は明治33年に、明治神宮の森をつくったことで有名な東京帝国大学の本多静六博士を源流の森林の調査に派遣した。濁ったり、水不足になる原因は何なのかということ調べさせた。そうすると、江戸時代に鬱蒼としていた山が、5,000ヘクタールも禿げ山になっていた。

#### 明治34年 都水源林の経営開始

驚いた本多博士は、国土保全の上からも由々しい事態だということで、調査報告書をまとめた。源流域の一角を東京府が管理すること、森を育てることによって安定した水源を確保せよ、そういう報告書を出した。報告を受けた東京市の2代目の市長になった尾崎行雄（尾峯堂）は、ことの重要性を認識して、どんな政策をうちだしたかという「給水100年の計」という百年後の都民のために森を育てようという大方針を決意した。自らも馬に乗って多摩川源流へ出向いて、荒廃した森林の現実を視察して、議会にその報告をし、同意を得て、市民の理解を得ながら源流の森づくりを開始した。多摩川源流には、そうい

う骨太の政治家の活躍の歴史も刻まれている。

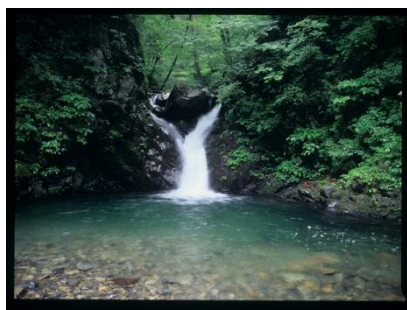
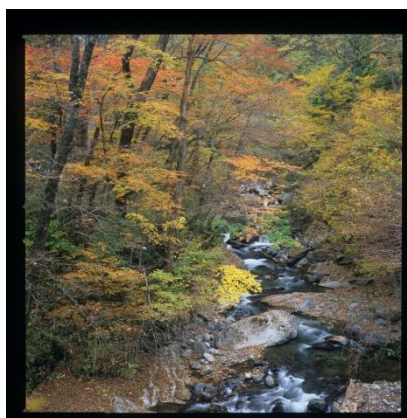
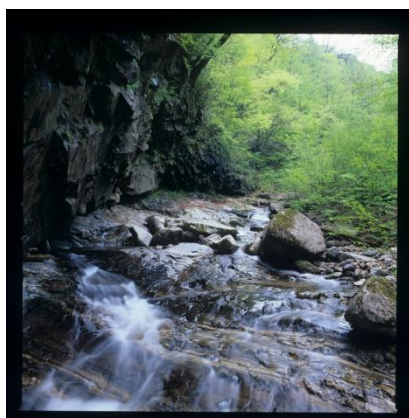
玉川上水の異変の原因は源流の森の荒廃にあったわけだが、このことは源流を軽んずると流域は源流に泣かされるという教訓を示している。現在、東京都の水道水源林は甲州市、丹波山村、小菅村の山梨県側と東京都奥多摩町の4市町村に広がり、その面積は21,635<sup>ヘクタール</sup>にも及ぶ。都水道局の優れた技術と管理によって全国屈指の水源林に成長している姿に尾崎行雄はきっと喜んでいることだろう。

### 3) 源流域の自然に関する写真のデジタル化

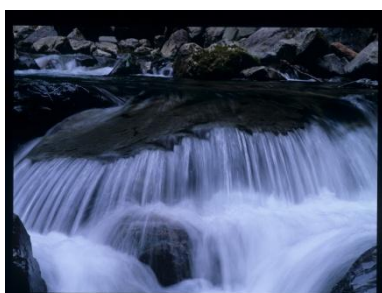
多摩川源流の自然・歴史・文化などの資源調査を開始して19年が経過した。源流域を歩いて甲州市塩山、丹波山村、小菅村、奥多摩町の様々な資源に関する調査をコツコツと進めてきたが、最初の10数年間はカラーやリバーサルフィルムを利用してきたため、貴重なデータがWEBGISに利用できないままに推移した。竜喰谷、大常木谷、泉水谷、小室川、後山川、丹波溪谷、小菅川源流、奥多摩の川苔谷、倉沢谷、小川谷、孫惣谷、長沢谷などの数え切れないほどの記録映像をデジタル化する作業が進めば、源流の可視化に利用できることから、今回、その一部のデジタル化に取り組んだ。

この取り組みは、1本1本のフィルムをルーペで覗き、ぶれていないか、映像が鮮明であるかなどを確認しながら、写真を選別する根気のいる仕事である。写真の一つ一つは、二度と訪れることのできない箇所も多くあり、今取り組まなければ永遠に記録が保存できない可能性があることから、その重要性を踏まえて、この活動を推進した。

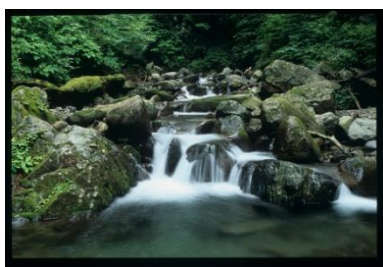
#### 1、源流資源デジタル化 1 多摩川源流 泉水谷・三条谷



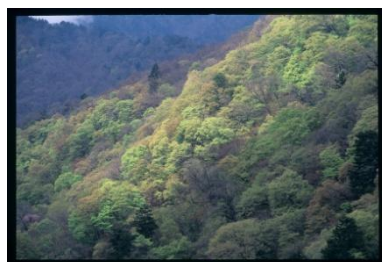
2、源流資源デジタル化 2 多摩川源流 泉水谷・三条谷



3、源流資源デジタル化 3 多摩川源流 小菅川



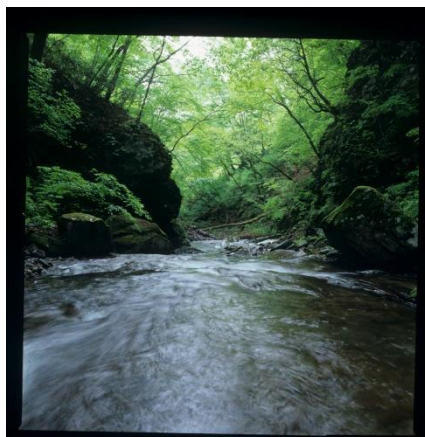
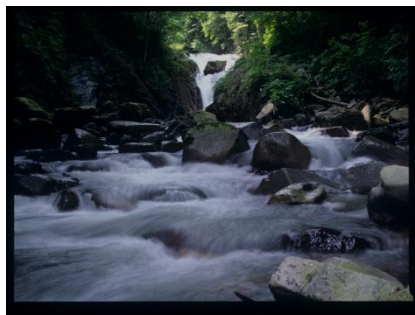
4、源流資源デジタル化 4 多摩川源流 竜喰谷・大常木谷



5、源流資源デジタル化 5 多摩川源流 一ノ瀬川・柳沢川



6、源流資源デジタル化 6 多摩川源流 竜喰谷・大常木谷



多摩川流域環境保全データベース検証用WebGIS構築に関する研究

(研究助成・学術研究VOL. 42—NO. 303)

著 者 宮林 茂幸

発行日 2013年12月1日

発行者 公益財団法人とうきゅう環境財団

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷1-16-14 (渋谷地下鉄ビル内)

TEL (03) 3400-9142

FAX (03) 3400-9141

<http://www.tokyuenv.or.jp/>